

藤井惟
勉編輯

小學博物讀本

卷一



特37

485

二
一
本

057036-000-8

特37-485

小学博物讀本 卷之1

藤井 惟勉 / 編

M8

CAP-0078



藤井惟勉編輯

小學博物讀本 卷一

明治九年
一月出版

萬笈閣梓

小學博物讀本卷之壹

特 37
485

獸類

明治九年三月

安藝 藤井惟勉 編輯

象ハ其種二つあり一ハ亞細亞ニ産ス一ハ亞非
利加ニ産ス大者ハ身の長一丈余あり其
肉ハ牛ニ倍して太し目ハ豕の如くありて四
足ハ柱の如く指無して爪あり歩むときハ先づ
左の足と移し臥する時ハ臂を以て地ニ着く其
頭大にして俯むこと能ハズ其頸回ると能ハ
ズ其鼻大にして長さ五尺あり下り垂れて地ニ

小學博物讀本 卷之壹

藤井惟勉編輯

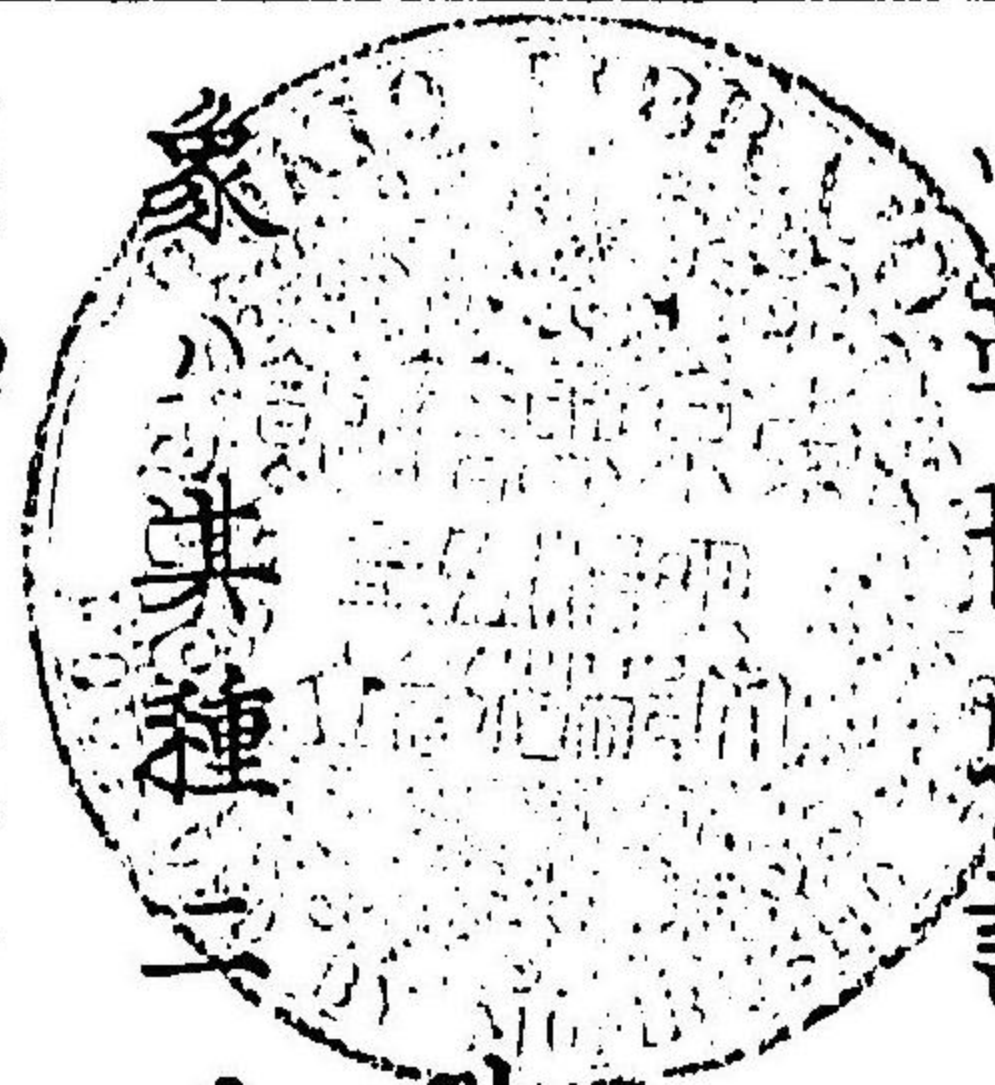
小學博物讀本 卷一

明治九年
一月出版

萬笈閣梓

小學博物讀本卷之壹

特 37
485



獸類

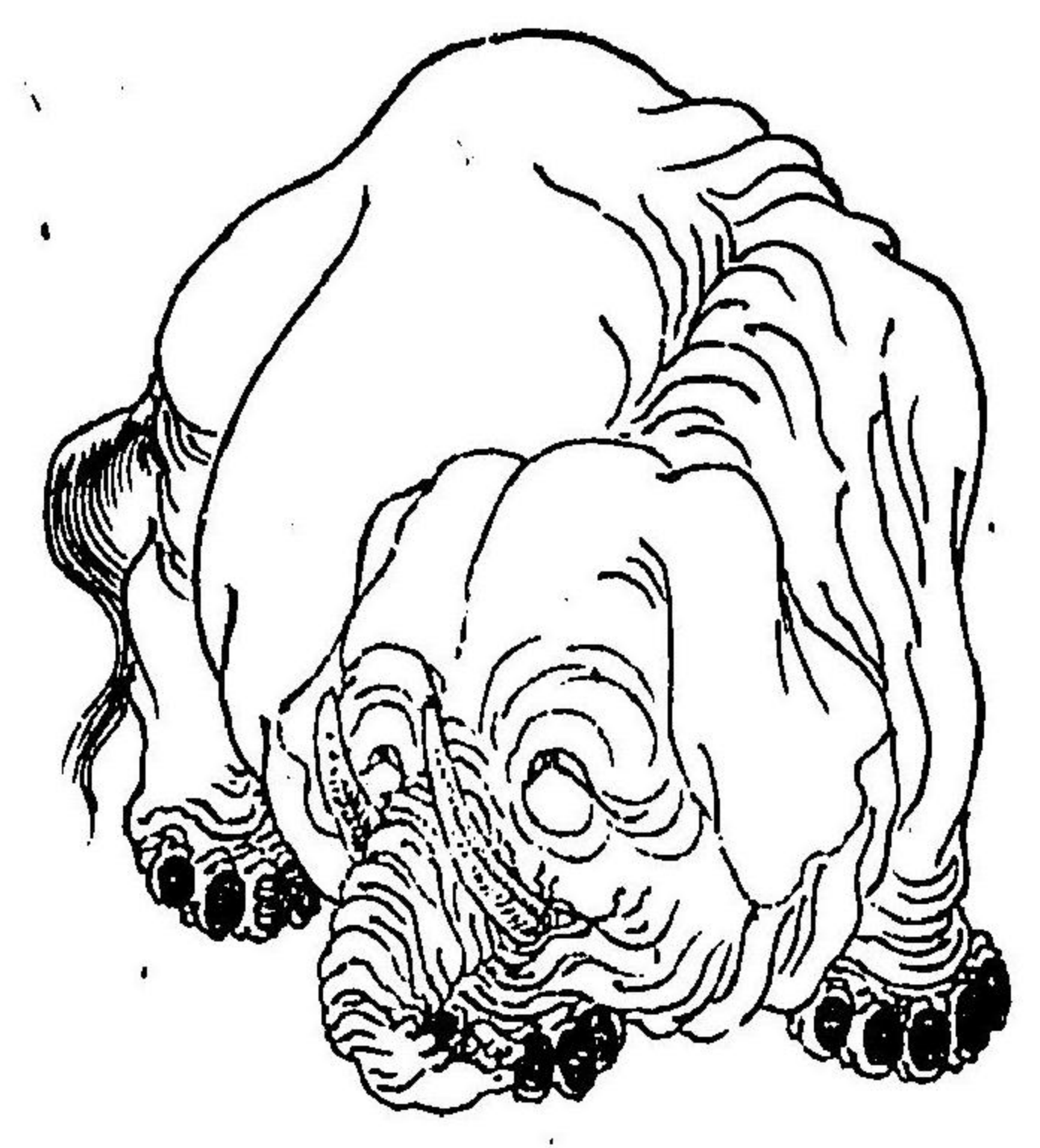
明治九年圖書界交付

安藝 藤井惟勉 編輯

象ハ其種二つあり一ハ亞細亞ニ産ま一ハ亞非
利加ニ産る大なる者ハ身の長け一丈余あり其
肉ハ牛ニ倍して太き目ハ豕の如くありて四
足ハ柱の如く指無いて爪あり歩むときハ先ツ
左の足ニ移り臥する時ハ臂ニ以て地ニ着く其
頭大にして俯むこと能ハ其頭回る能ハ
ナ其鼻大にして長と五尺あり下り垂れて地ニ

小學博物讀本 卷之壹

象の圖



至る鼻の端甚と深く中に少き肉の爪あり芥粒と拾ひ物と食ひ水と飲も皆鼻と以て巻き口と入る耳の後ろや穴あり其薄きと鼓の皮の如く之と刺す時ハ立とあると死ハ口の外は兩の牙あり長と六七尺あり口内は食齒あり其性諸獸

と同じくらひて久しく識り芻豆及ひ甘蔗と嗜と且つ酒と好めり野象と殺むハ穽と設けて之と陷る生たる象と捕るハ雌象と以て媒とあしてあれと誘獲ハ久しく飼ひ押ふときハ能く人言と解ハものあり犀ハ其種三つあり一と山犀と云ひ一と水犀と云ひ一と兕犀と云ふ其状ハ水牛と似て首ハ猪の如く腹大かして脚鼻ハ其脚象と似て三の蹄あり全身一孔毎とハ三毛と生ハ山犀ハ山林に居て人多くこれと得水犀ハ常ハ水中と出入し

て甚た捕へ難し山犀水
 犀共は双の角あり一ハ
 鼻にあり一ハ額よりあり
 鼻よりあり角ハ長くして
 額よりありものハ短し兕
 犀ハ特犀ふして止く一
 角あるものと牯の角ハ文大ふして特の角ハ文細
 うあり

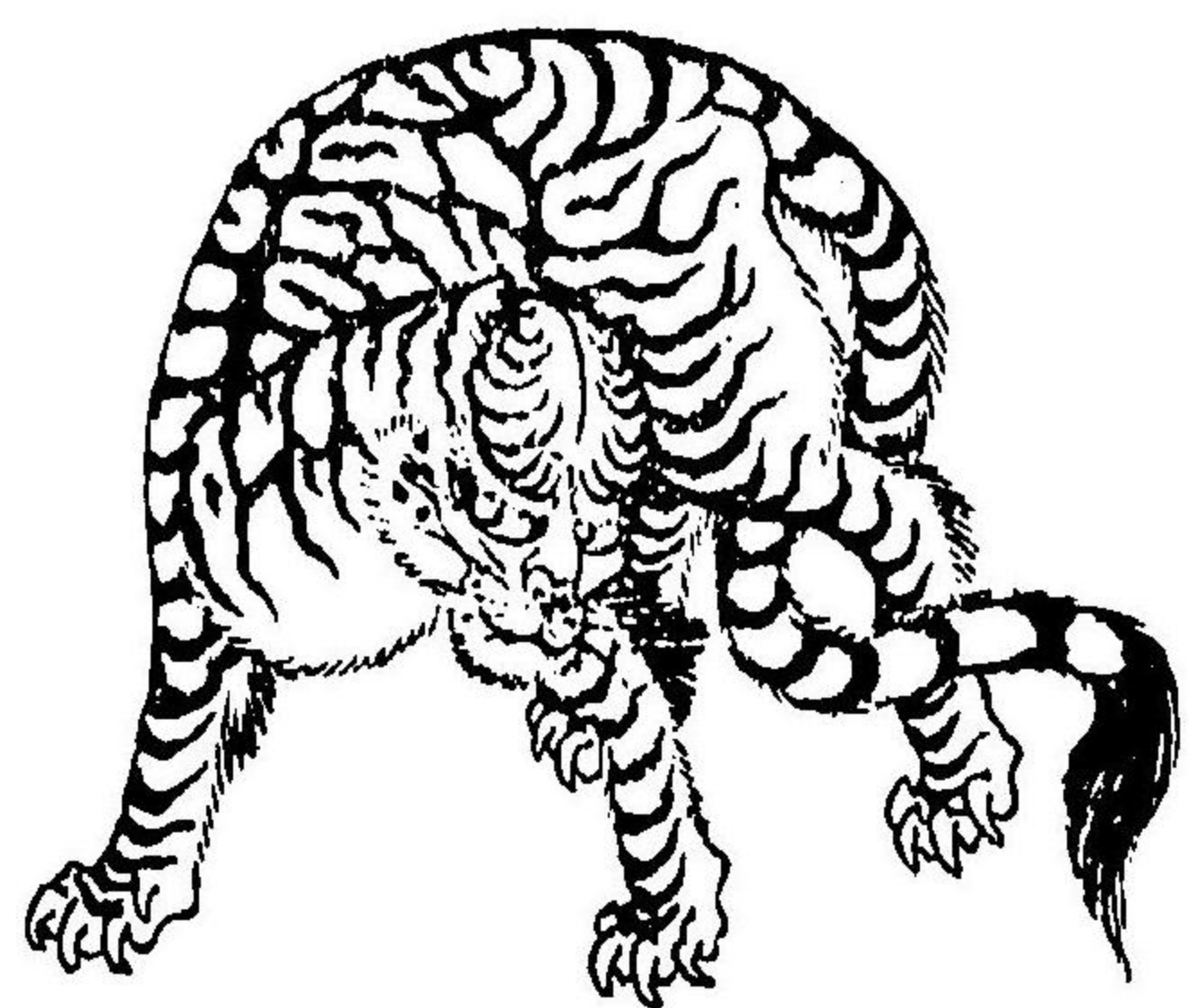
犀の圖



虎ハ山獸の君ふして狀ち猫に似て其大ききと牛
 の如し全身黄質ふして黒き章あり牙ハ鋸の如

く爪ハ鈎に似て鬚尖り舌大ふして掌の如し吼
 る聲雷の如く百獸震ひ恐る性點くして殘し激
 らひして怒る一胎は四五子あり孕て七月ふ
 て生む北虎ハ其兒と愛戀し牡虎ハ置て更は顧

虎の圖



るは世界中虎の多きは
 亞細亞の南方又ハ印度
 蘇門答臘等と以て第一
 とあり

豹ハ其種多くあり其狀
 ち虎に似て体小し其面

白くして頭圓し全身の毛赤黄色にして腹ハ白
 し脊ハ長し歩むときハ其脊と隆くして文の錢
 似たるものや金錢豹と曰ひ艾の葉に似たる
 のや艾葉錢と曰ふ尾の赤くして文の黒きもの
 と赤豹と云ひ毛の白くして文の黒きものや白
 豹と云ふ身の高さ二尺長さ五尺あり其性人
 と恐れ喜んで小獸を食ふ能く樹に上りて跳躍す
 ること甚多疾き猛獸なり

獅子ハ百獸の長くして亞非利加洲に産する
 と多し其状虎に似て小く其色黄なるものあり

青きもの毛あり頭大

して銅の如く額ハ鐵の

如くして尾も亦長し

四足の爪ハ鈎の如く牙

ハ鋸の如く吼る聲雷の

如く壯獅子ハ尾の毛茸

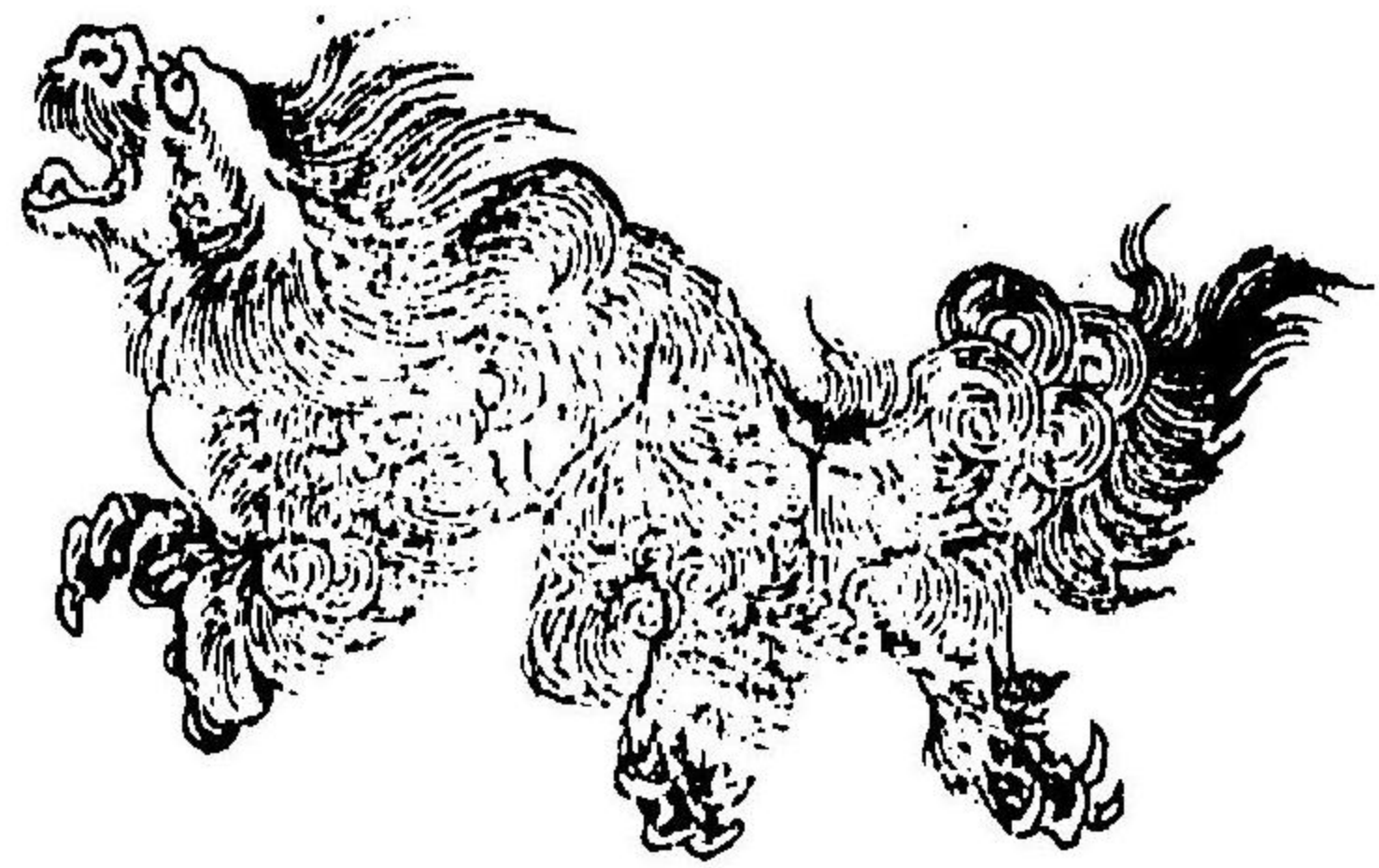
の如く其大なる斗の如

く怒るときハ其威齒

顯れ喜ぶときハ尾も顯

る其状ち瘳惡よりて一

獅子の圖



ひ吼るときは百獸辟易す常に山林或は巖穴に
 居り晝は伏れて夜は出行を飢れは虎と拉き辱
 と裂き飽けは眠り飢ること極るときは始りて
 人と食ふに至ると云ふ

狼は常に穴居をす獸にして其状は犬の如く頭
 鋭く後脚廣く足て甚た高うら尾は下に垂る
 其全身の色一からん或は黄黒あるものあり或
 は蒼灰あるものあり其聲大なり又小なりて能
 く兒啼をなして人と魅は其性能く機を知ら若
 し人ありてこれと獵んと欲せば深く匿れて又

狼の圖



出ては四趾を踏めてよく
 水を渉る或は獵人ありて砲
 の火繩の氣を臭くときは遠
 く其場を逃去れり夜は山間
 へ行くと人ありときは其首の
 上を跳越するまに數回おし

て人恐怖轉倒するときは忽ちこれと噬食ふこ
 と送狼と云ふ狼人の屍と見るときは必ず其
 上を跳越しこれと尿りして後食と云ふ
 熊は山谷に生る獸にして豕の大なるもの如

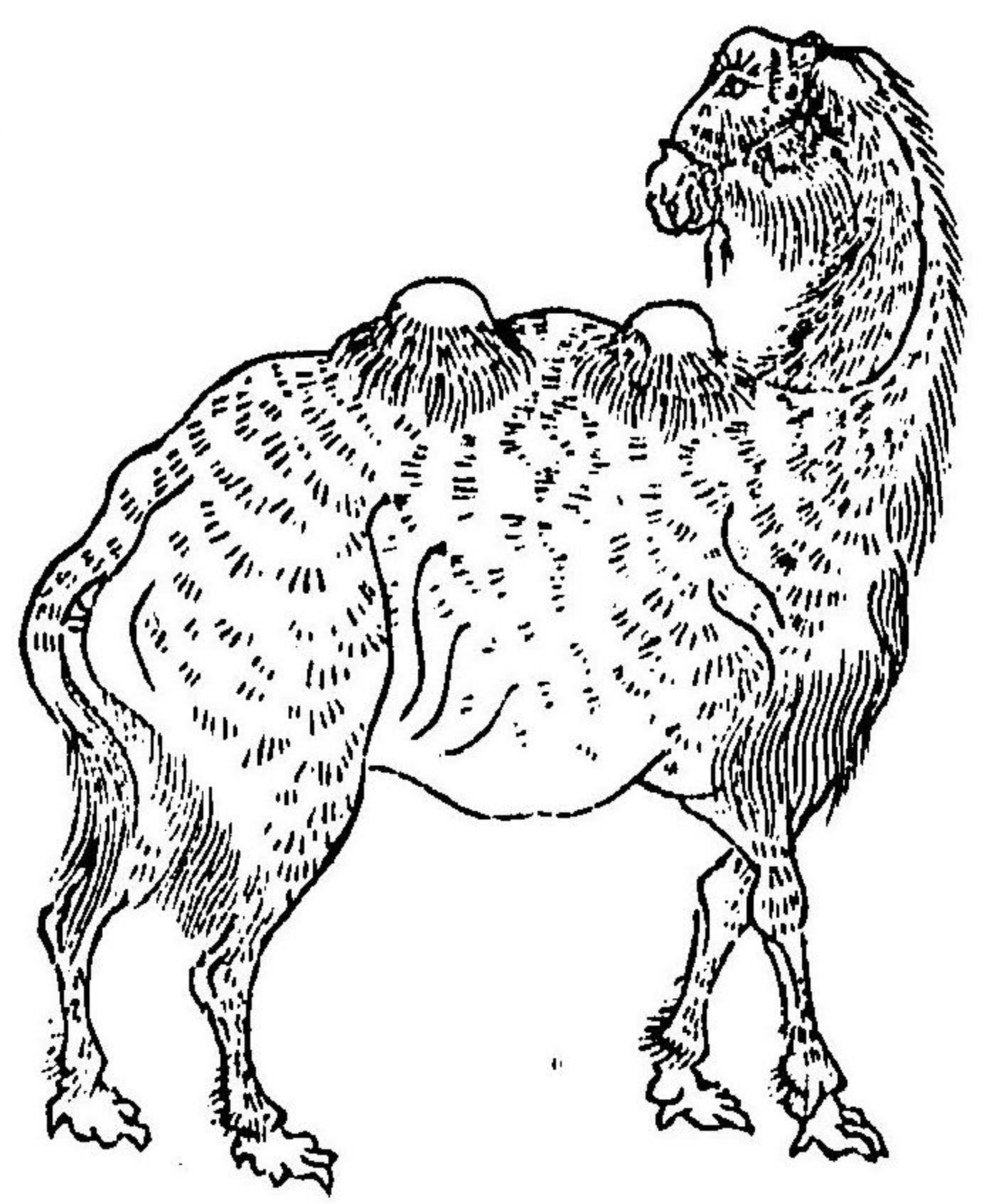
熊の圖



かして目ハ堅足ハ人の如く
 全身黒色かして胸の上は白
 毛の形も偃月の如く性輕
 捷かして攀縁を好む喬木に
 上る若く人ありて去れば見
 るときは忽ち顛倒して地に
 投す冬の蟄りて穴か入り春ハ出つ冬月蟄する
 ときは更け食ハ汝く饑るときハ其掌ヲ舐む
 故に其美ハ掌にあり掌の徑り一尺爪三寸あり
 駱駝ハ其狀も甚だ異あるものかして其頭羊の

如く脚に三の節あり背
 二兩肉の峯形ありて鞍
 を負ひたるもの如く
 其色一あらはれて或ハ
 蒼褐あるなり或ハ黄紫
 あるものあり身の高さ
 六尺脚は兩つの甲爪あり
 其性寒の耐へ暑と惡
 故に夏至に毛を退く其力能く重きと負ひて
 殆んと千斤に至る一日に行くと數百里又

駱駝の圖



如く脚に三の節あり背
 二兩肉の峯形ありて鞍
 を負ひたるもの如く
 其色一あらはれて或ハ
 蒼褐あるなり或ハ黄紫
 あるものあり身の高さ
 六尺脚は兩つの甲爪あり
 其性寒の耐へ暑と惡
 故に夏至に毛を退く其力能く重きと負ひて
 殆んと千斤に至る一日に行くと數百里又

能く泉源水脈のあり所を知り足て以て地を跑
 せとれと堀れハ必ず氷あり沙漠中夏の熱風多
 ク旅行の客とれハ遇ハハ即ち死ハ風の將又至
 んとするとき駱駝必ず聚鳴以多くとれと驗と
 あり

牛ハ生じて二歳あると粗と云ひ三歳あると膠
 と云ひ四歳と牝と云ひ五歳と牝と云ひ六歳ある
 とと牝と云ふ其性順ふして病むるときハ則ち立
 つ臥をるときハ前足と先ふして起るときハ後足
 と先ふし常々草葉を食ひ就中蒿の葉を喜ぶ

のあり

馬ハ人の使用をる良畜

ふして其状も馬の字の

如く其色一からふして

駢毛あるものあり驪か

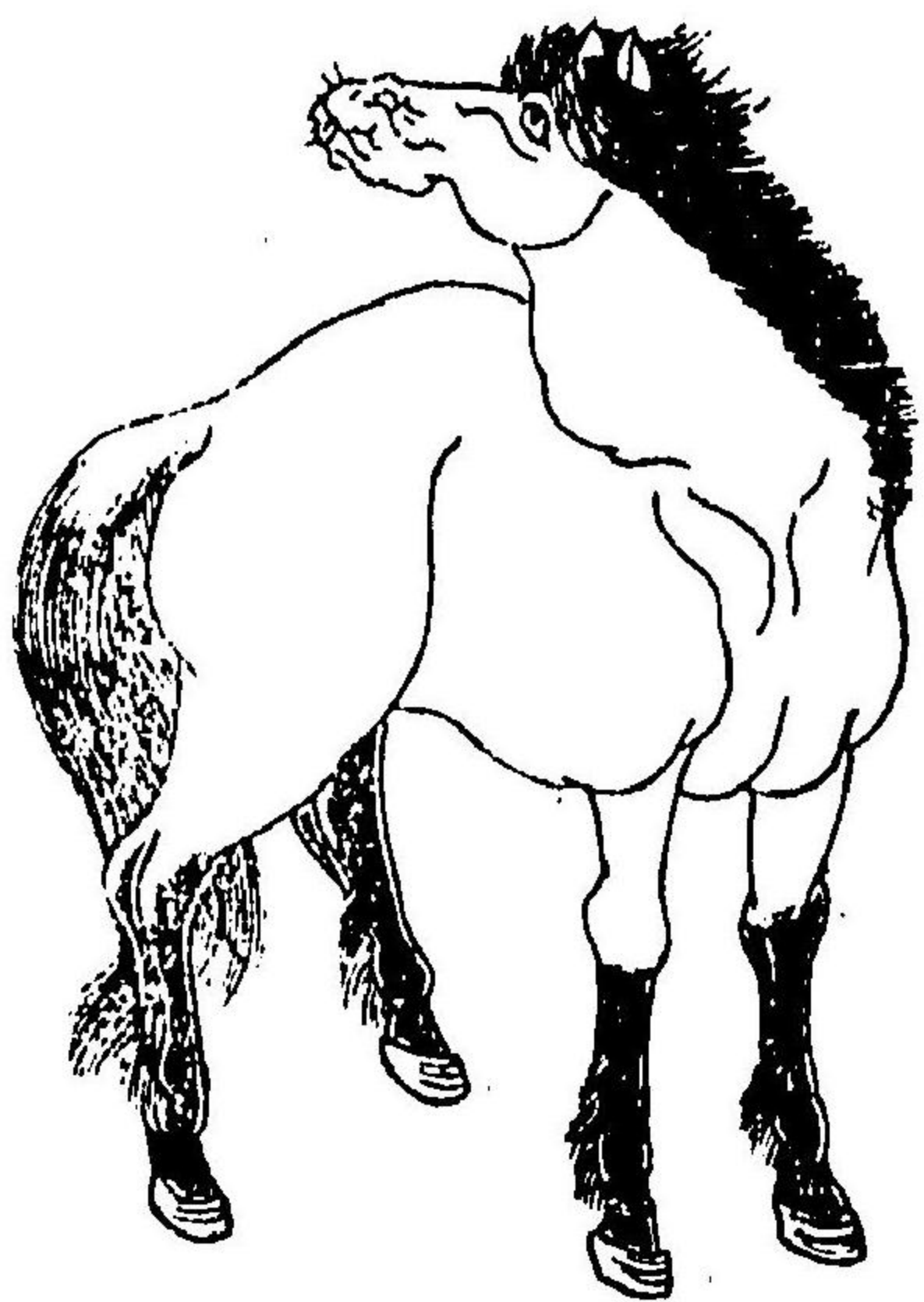
るものあり駒あるもの

あり其他油馬、騮、烏騮、黄

騮、紫騮、連錢、驄等のものあり其性少く悍く

て力雄豪あり生じて一歳あると馬と曰ひ二歳

あると駒と曰ひ三歳あると駢と曰ひ四歳ある

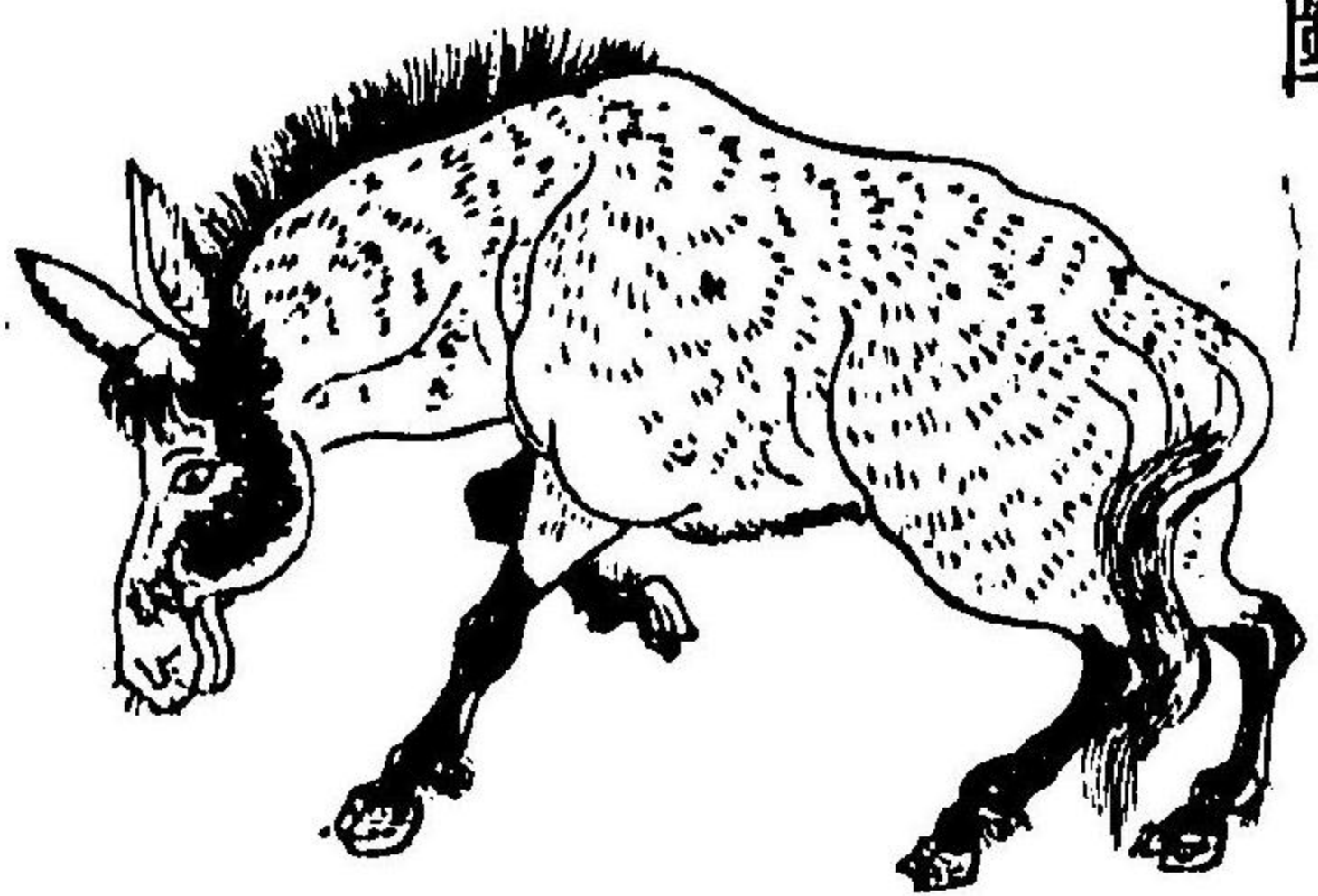


馬の圖

と駝と曰ふ馬の眼光かて人の全身を照すもの
ハ其齒最も少く眼光愈近あるときハ齒愈々大
ひあり

騾ハ其狀ち驢より大かして馬よりの健より其
力ハもね腰もあり其種五つあり牡驢の馬に交
合して生るゝものハ即ち驢あま牡馬の驢と交
して生るゝものや駃騠と云ひ牡牛の馬と交りて
生るゝものや駝駟と云ひ牡驢の牛に交りて生
るゝものや驢驘と云ふ

驢の圖



驢ハ馬に似て頬長く額廣く
耳磔け九腹前かわりて能く
駄負も毎夜鳴て更に至る其
毛色一あらん或ハ褐色あり
あり或ハ黒色ありものあり
或ハ白色ありものあり

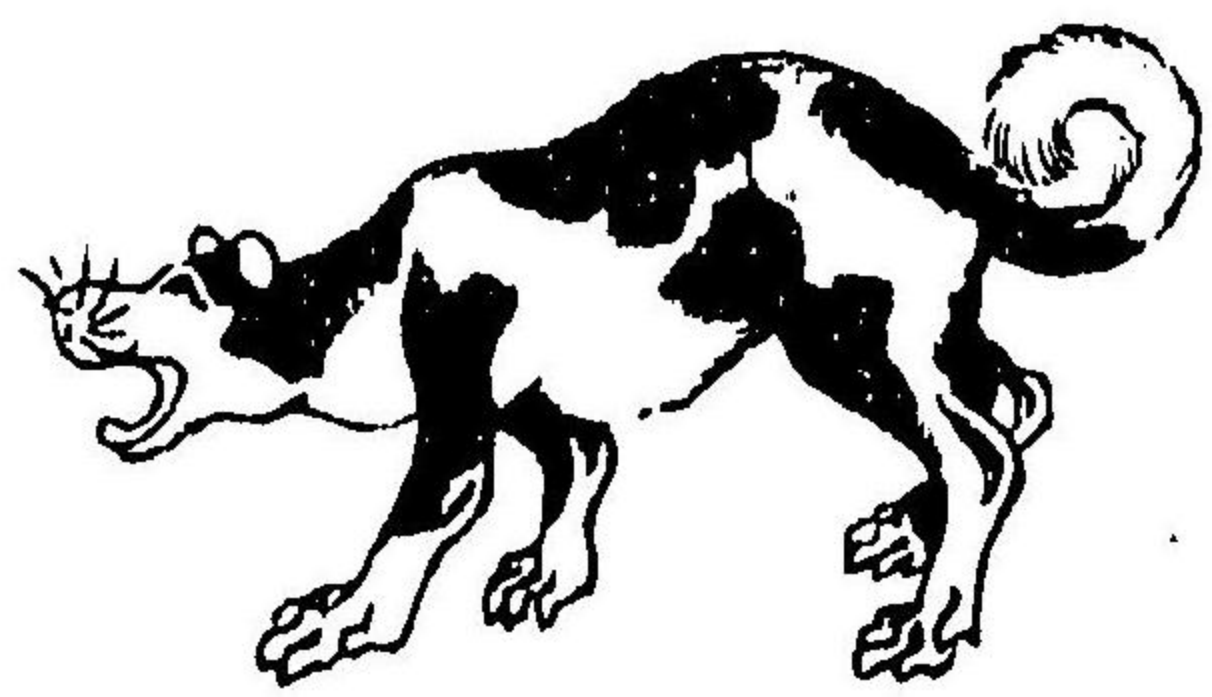
豕ハ六畜の一ふして皆人を用ゐるものあり其
体高大かして重さ百余斤あり物と食ふこと至
て寡くこれと畜養する者と最も易く其狀各一
あらん或ハ耳の太きものあり或ハ少きものあり

豕の圖



あり或ハ足の長きゆり
 或ハ足の短きあり其性
 穢と雨と喜々其孕むと
 きハ四月ゆいて子と生
 ひ一子と特と云ひ二子
 と師と云ひ三子と豨と
 云ひ末の子と云ふ牡豕と
 豨と云ふ
 犬ハ六畜の一ふいて皆人
 類甚多て其用三つあり田
 犬ハ喙長く善

犬の圖



く獵る獨犬ハ喙短く
 て能く守る食犬ハ其体
 肥くと饌供ふ性ハ最
 小雪と喜ひ暑と怕る鼻
 利くくと能く氣と臭く
 能く守て盗人等と防ぎ
 其獫犬の如きハ狩獵の
 とき山野に放ちて禽獸
 のある所ると臭まはむ
 犬栖家と離ると遠き路
 と行くときハ必も尿と路
 傍に遺り歸るゆ及ん
 て其氣と臭き終り已り
 栖家と失はる

羊ハ六畜の一カシテ皆人の用ニあるものあり
 其類甚ク多くシテ山羊、綿羊、草羊、羚羊、等ト云フ
 諸羊皆孕シ四月ホシテ生ヒ其目ハ神ホク其腸
 薄クシテ縈曲アリ其一種の羊ハ頭ラ小クシテ
 身大アリ毛長ク二歳ホシテ其毛ト剪リ以テ氈
 トホヒコレト綿羊トイフ
 其性濕ト惡シ燥ト喜ビ角
 ホキものト羴ト云ヒ羊の
 子ト羔ト云ヒ五月ホシト
 羴ト云ヒ六月ホシト羴ト

羊の圖



云ヒ七月ホシト羴ト云フ

猪ハ常ク深山に居ル獸ホシテ其狀腹小クシテ
 脚長シ全体ハ毛色ハ一ホラシシテ或ハ褐色如
 ルものあり或ハ黄色ホシるものあり牙ハ口外出

猪の圖



シ恰モ象牙の如ク能ク松脂
 ト掠メ沙石ヲ曳キ全身ト塗
 テ矢玉ト防ク若シ怒ルとき
 ハ背の毛起テ針の如ク頸す
 短クシテ左右ト顧ルことナ
 タハ常ニ野外ホ出テ田稼

と害し獵人これと射るときは最後の所と射る若し誤て其前と射るときは必と人と傷くと云ふ

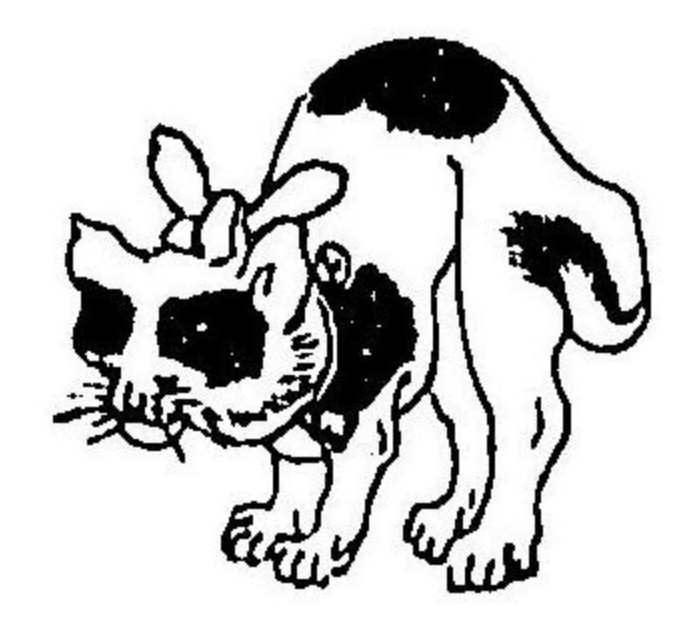
鹿ハ山林ハ栖むるのよして其狀身の馬ハ似て尾ハ羊ニ如し頭最え長く脚高しして行くおと速し牡鹿ハ角わり大さ小馬の如く其色黄より白斑あり牝鹿ハ角無して身小なり其色黄より斑毛あり性淫より一牡常に數牝鹿



鹿の圖

交り性喜んで草を食み常に相呼んで同旅せり若し孕むときは六月よりて子を生む猫ハ小き獸にして其色同一あらば或ハ黄色あるものあり或ハ黑白あるものあり或ハ斑らぬものあり其狀は狸の身の如く面ハ虎の如く毛ハ柔くより利き齒あり尾ハ長きより短きあり腰短くして目ハ金銀の如く晴ハ時々

猫の圖



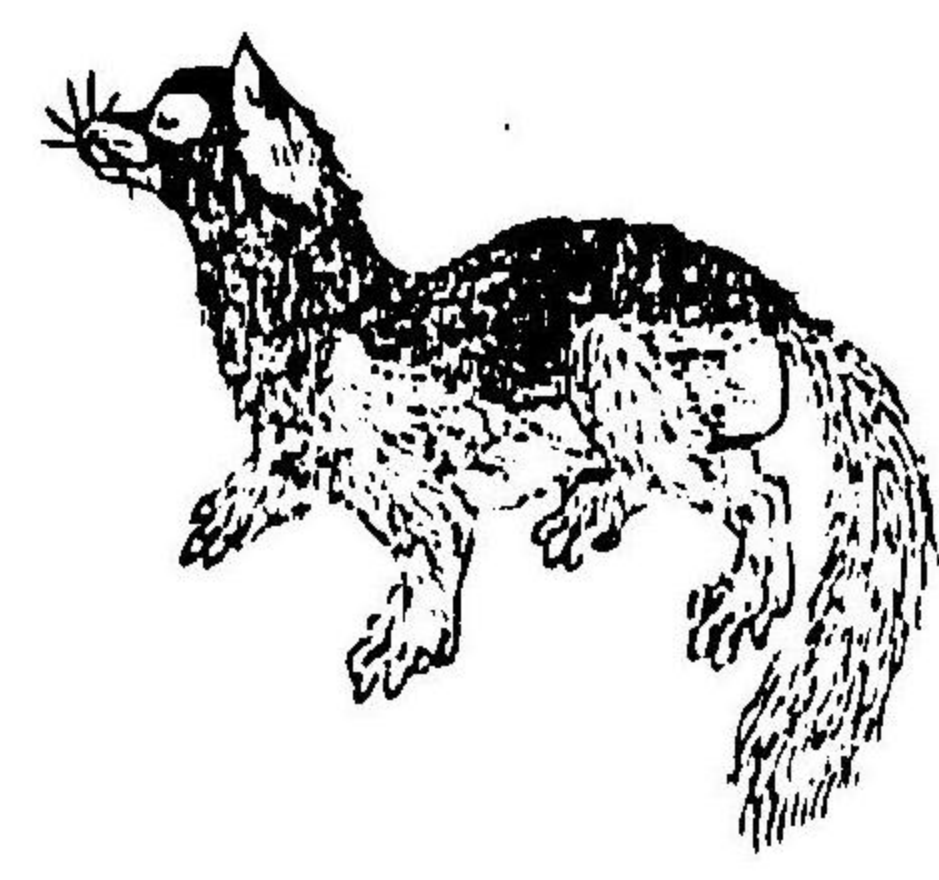
に相變せり鼻端常に冷く

て夏至一日ハ煖クあり春ハ牡猫ヲ呼ビ秋ハ牝猫、牡猫ヲ呼んで交合を若ク孕むときハ六十日ニて子成生む生じて七日ハ開眼す

狸ハ其種大小一からび其色多くハ淡黒ハ一て狐ノ如ク脚短ク一て走る速クハ樹ニ登る

こと速クハ常ニ土穴ニ竄れて果穀及ヒ雞鴨ヲ盗食一其老狸ノ如キハ腹ヲ鼓カ一て自ら樂む云レテ狸腹鼓と云ふ

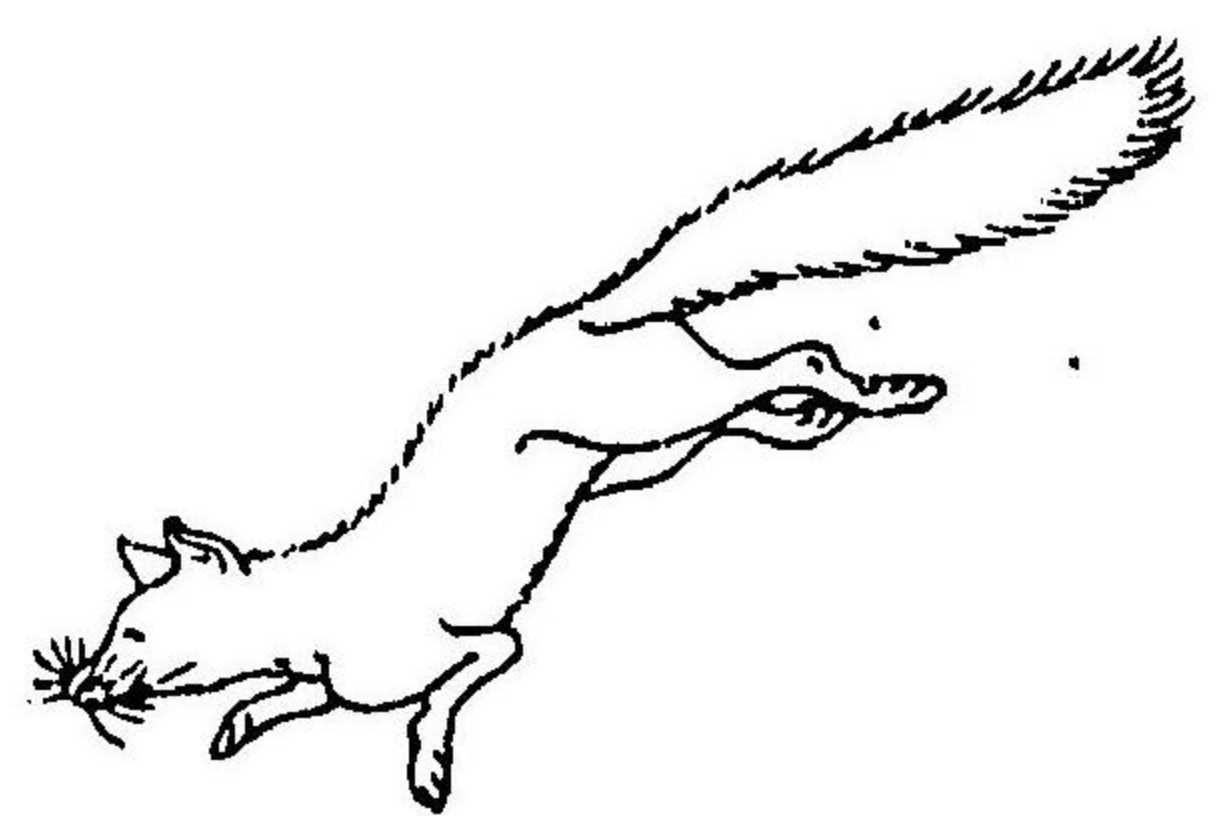
狸の圖



或ハ山家の爐辺ニ坐一暖ク於るハ乘レハ陰囊ヲ垂延をること己ク身よりハ廣大なり

狐ハ其狀チ小キ黃狗ニ似テ鼻尖リテ尾ハ太シ一日三ハ穴ニ伏一夜ハ出テ食ヲ竊む其毛色三ツありテ或ハ黃、或ハ黒、或ハ白、白色あるものハ

狐の圖



尤ニ稀あり尾ハ白錢の文有るものあり其腋の毛純白あるものニ白狐と云ふ狐の患ふるときハ其聲兒の啼ク如ク喜

ふときハ聲壺と敲く如く其性犬と畏る若く
犬ありておれ逐ふときハ必を尻る其氣惡臭
ありて犬も近くこと能ハ人又と人々惑ハ
仇と報ふされとも能く恩と知る好む所ハ小豆
飯、油、焚物あり
麋ハ鹿の属ありて其状も亦た鹿に似たり牡多
くして牝少きものあり牡麋ハ角ありて冬至
の解を其全体の毛色青黒ありて大きき小牛に
如く蹄の下に二つの竅ありとれと夜目とあり
常ハ百千の群をなすものなり

麋ハ鹿の属ありて秋冬

麋の圖

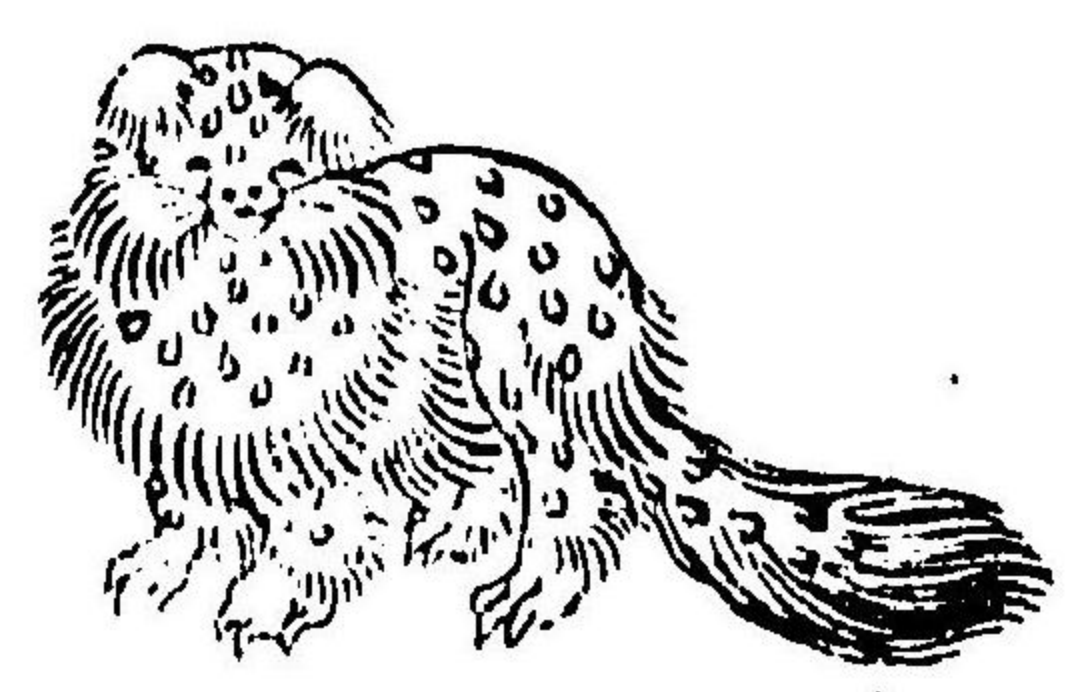
ハ山に居り春夏ハ澤に
居る其状も鹿に似て小
さき角あり其毛色ハ黄
黒ありて其身の重さ三
十斤に過ぎば雄麋ハ



牙ありて口外に出つ然とる物と噬むこと能
ハ其皮ハ軟くありて鹿の皮より勝れり夏ハ
毛落ち更日生して皮厚く冬ハ毛多くして皮薄
く多く淺草中に栖むものあり

麝ハ麝に似て小く黒色あり全身虎豹の文あり常に山谷に栖んで栢葉及び蛇と食ふ身は香ありきものあり正しく陰莖の前の皮内より別膜袋あつておれと包裏す夏日は多く蛇蟲を食ひ寒さふ至るは香ひ満つ其性臍を愛する人のる先に逐れて急おるときは巖に投じ爪を擧て別裂し其香ひ就縈して死をと云ふ

麝の圖



靈貓ハ其状も狸の如くふけて全身の毛は金錢豹の文あり其陰糞溺共は香きこと麝の如く風狸ハ其大さ狸の如く又獺の如く其状も猿猴の小さきり如く目赤くして尾は短く全身の毛色青黄ありて豹の如き文あり性蜘蛛を好む其尿乳汁の如く晝るは蹠伏して動くは夜は風を因て騰躍し巖を越へ樹を越へ其捷きこと鳥の空中を飛ぶり如く若く人網して去

風狸の圖

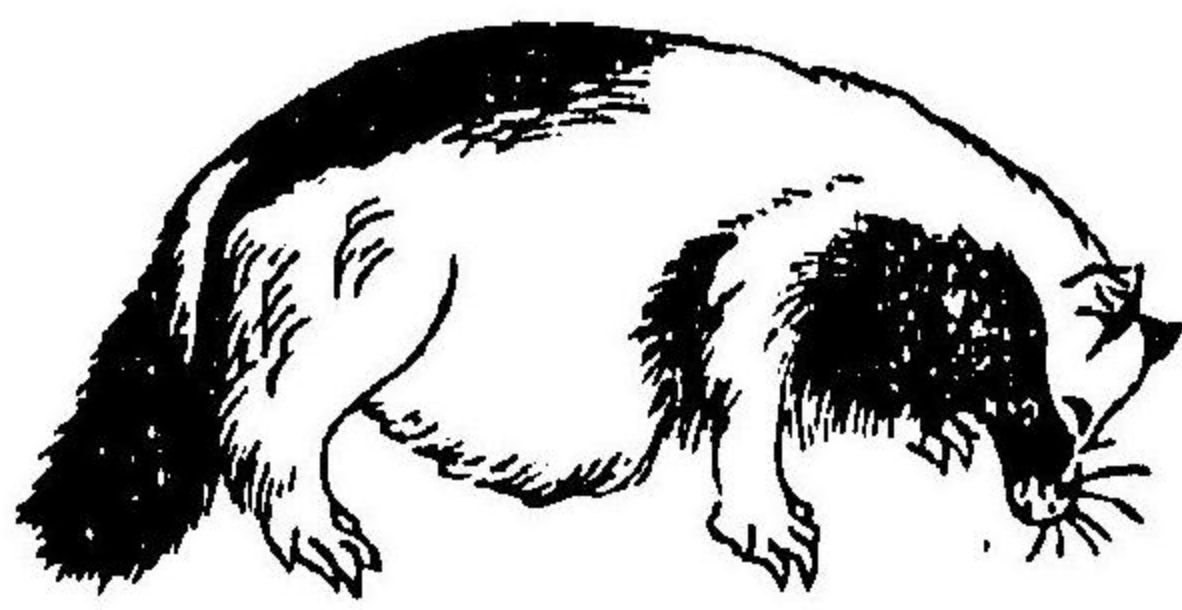


其捷きこと鳥の空中を飛ぶり如く若く人網して去

色と得るときハ頭と叩きて憐れみと乞ふとれ
と撃つときハ忽ち死し口と以て風と向ふハ
又復も活るといふ

貉クヌハ山野の間ニ生るものかして狀狸の如し頭

貉クヌの圖



鋭し鼻尖かして色ハ斑ら
かり全身の毛ハ深厚か
て温らかり日るハ伏し
夜ハ出て蟲と捕り食ふ性
睡眠と好み人あり杖と以
て去ると叩き醒せと乞復

も寐る耳聾にして人々見るときハ逃走を

猫ハ山野の間ニ穴居するものかして狀ち小く

猪に似たり形肥大にして行くと遅し全身の毛

短くして喙し尖り足短し褐毛頭より尾と連糸

りて一道ニ黒し其耳聾し

して人々見るときハ乃ち

走る常に地ニ孔して蟻蟲

及ひ瓜果と食ふ

豺ハ山中に生るものかして

て狼の属ひあり狀ち狗と

豺シの圖



似て毛色頗ふる白一前足矮く後足高くして長
き尾なり其体瘦細くして頗ふる健猛あり牙ハ
錐の如くかして能く物と噬み常に群行せり性
喜んで羊と食ふ其啼く聲犬の如く其氣臊臭く
して惡むべきものあり

獾クニの圖

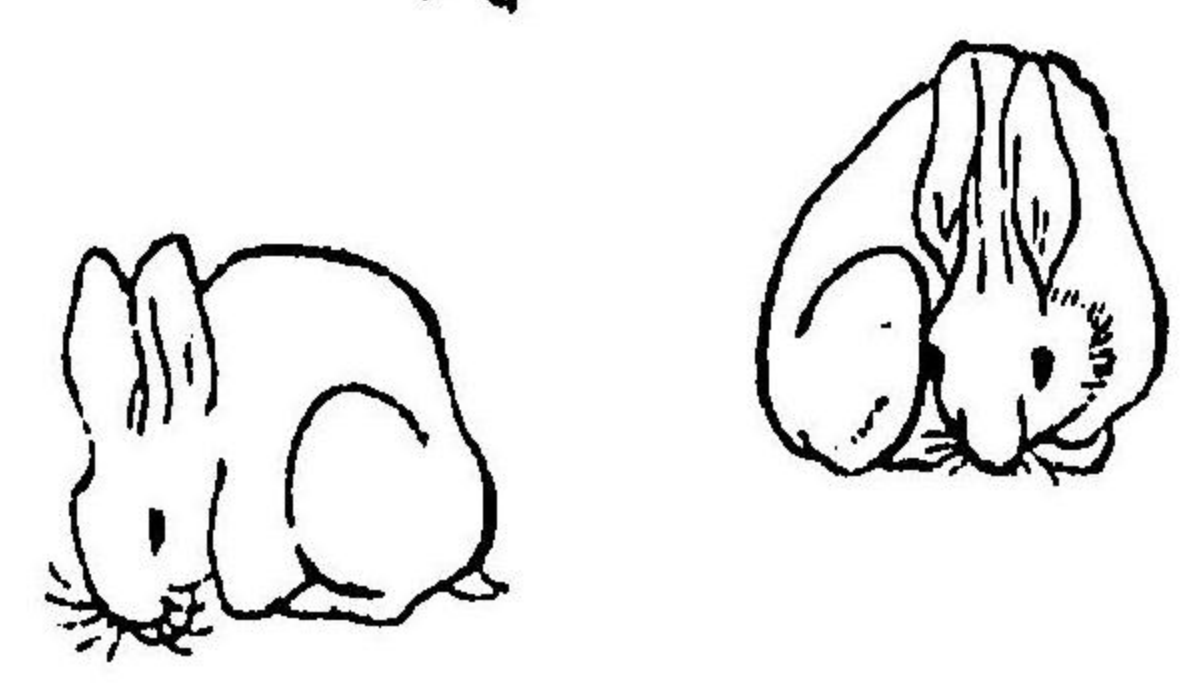


獾ハ熊に似たる獸かして
頭ら小さく脚卑く其色黑白
の斑らふくして鼻ハ象の如
く目ハ犀の如く尾ハ牛の
如く足ハ虎の如く力多く

して竹骨蛇虺と蝮り食へり

兎ハ其大ききあるるの狸此如く全身の毛褐色赤
り状ち鼠の如くかして尾ハ短く耳大かして鋭
且前足短かくして尻に九穴あり善く走ること

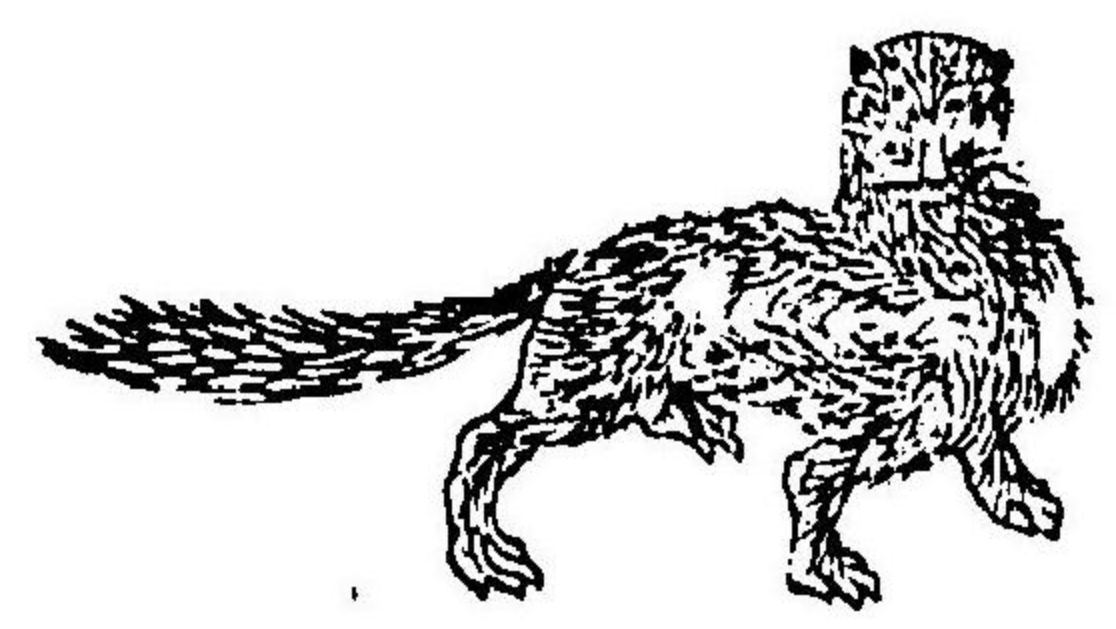
兎ウサギの圖



飛ふり如く山と登るときハ
愈速く山と下るときハ愈遅く
前足短くき所以あり孕むと
きは五月かして子と産む目
ハ瞬せ以毎に熟睡をれとル
眼と閉ち以して黒睛瞭然と

り常の木葉と食とせり
水獺ハ常に江湖に栖むるのあり状ち小さき狐
に似て全身の毛色黒青あり尾長く四足ハ共
短く常に水上に游ぎ魚と捕て食とせり性捷勁

水獺の圖



かして牙堅あり故に犬と闘
へハ却て犬と喫殺す其他獺
獺と云ふものあり即ち獺の
大ひぬるものにして頸ハ馬
の如く身ハ蝙蝠に似て酒を
飲ましむるとき忽ち死して斃

と云ふ

海獺ハ其状ち獺に似て獸と魚と相半ハする
のあり其大なるものハ六七尺小なるものハ四
五尺あり頭面より肩に至るまでハ恰も北鹿の

海獺の圖



如し耳ハ小さく眼ハ太く
全身の毛細密にして短く色
ハ土器色にして水に着て濡
ると以兩髻の末黒くして恰も
手の如し腹ハ肥大にして尻
ハ窄く尾ゆりて長くと二三寸

尾の兩側又髻あり立行せんとするときハこれと開擴して足とあり肩と水而み出して行く潜遊せんとするときハこれと窄伸して水と行く恰も魚の尾の如し

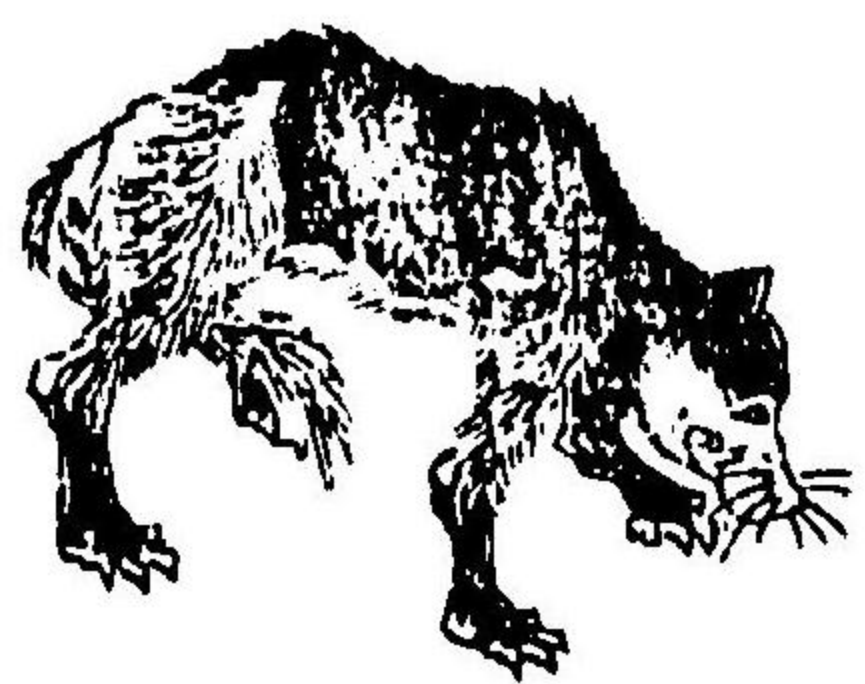
膾胸臍の圖



膾胸臍ハ我々北海道の松前の海中に居るものにして狀ち魚に似て毛あり即ち魚と獸と相半ハあるものあり大あるものハ二三尺あり小あるものハ一尺余寸あり頭ハ

猫の如くかいて口尖り眼鼻有て耳の垂きあり齒ハ上ハ一行あり下ハ二行あり相双んで長と短と齧齧ふ尾ハ金魚の如く黒色にして五岐あり全身の毛黚に似て稍黒し尾に近き所は鱗蹠あり恰も足の如し性好んで睡眠を犬若しこれ

獵虎の圖

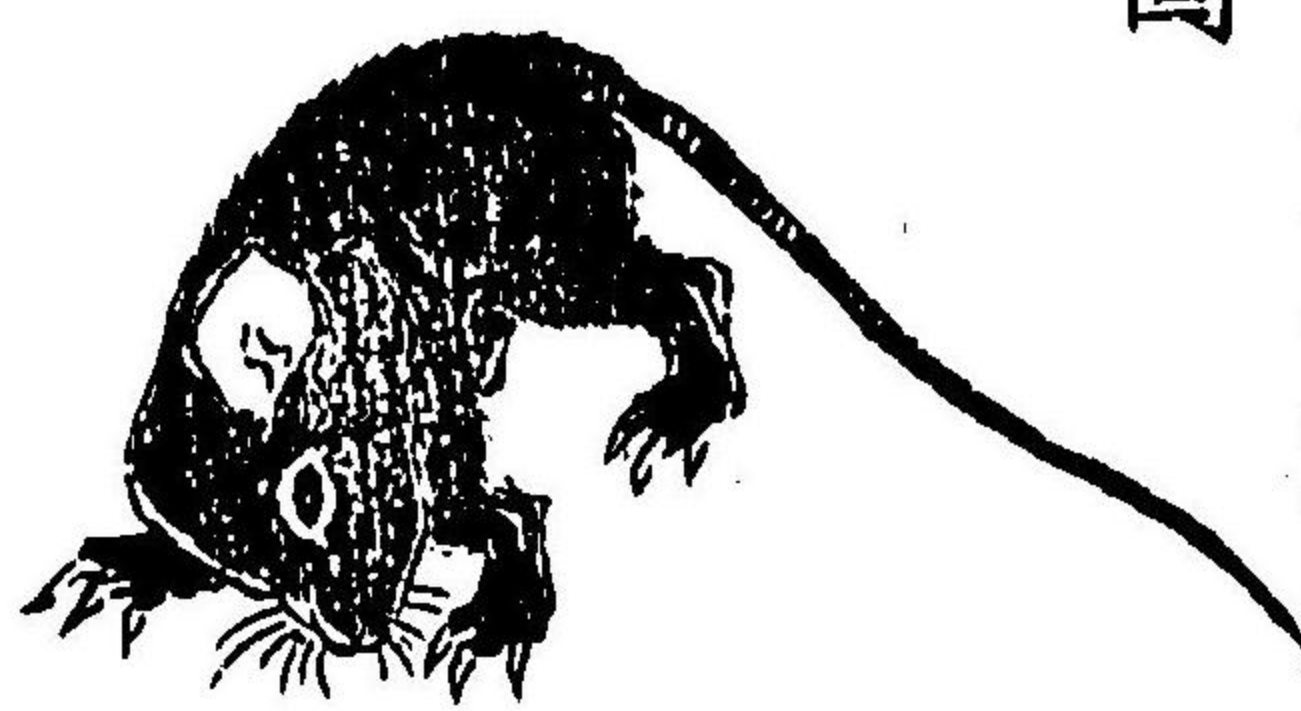


と食ふときハ皮爛きて死に至る獵虎ハ常に水に入るものにして其大ひあるものハ野猪の如し頭短く猪の頭に似て

脚も亦短うー全身の毛色純黒よーて柔軟あり
 これと摩つるか左右順逆あり奔走を了と矢
 の如く黒毛中に白毛少く交るものなり其價最
 る貴重あり

鼠類

鼠の圖



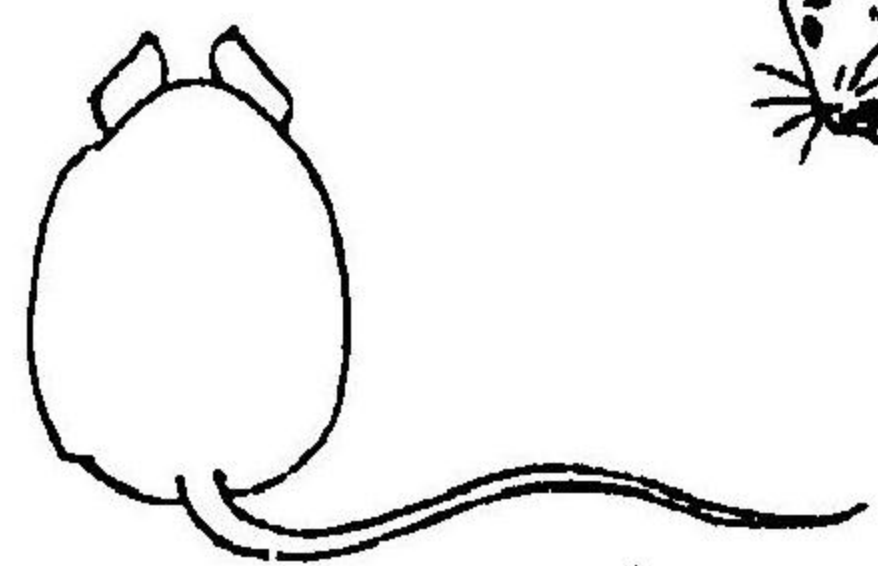
鼠ハ其類頗ふる多し形兔
 よ似て小し色ハ青黒色よ
 して四の齒ありて牙あり
 鬚長くして眼ハ露ハなり
 鼠孕めハ一月ありて生む

多きものハ一孕ハ六七子あり其糞甚た毒あり
 て鳥若く誤つて之を食へハ必も死ハ又鐵器を
 鏽腐を若く新刀の表を屎を塗れハ一宿ありて
 古刃の如くあると云ふ
 鼯ハ一種白毛の鼠あり
 て多くハ米倉に居るもの
 あり
 鼯ハ其大ききと二寸あり
 過きハ老ると雖も長大
 ならず毎に碓の頭より

鼯の圖



鼯の圖

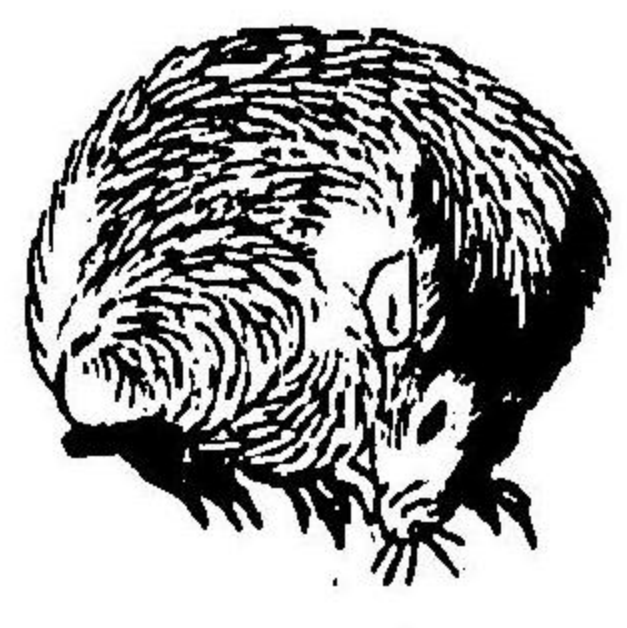


出て米糠と竊食を俗とこれと二十日鼠と云ふ
とせあり

水鼠ハ溪澗ニ居るカのみ一ト其状ち小さく色
稍白一赤き斑らありて善く走る常に水草或ハ
魚と食とせり

蟹鼠ハ其状ち兔ニ似て爪と足との鼠に似たり

蟹鼠の圖



前足ハ僅クみ寸余より後
足ハ殆んど尺ニ滿つ尾カ亦
長く一て端ニ毛あり一跳數
足かして止るときのハ仆ると

云ふ

麝香鼠ハ大ニ家鼠の小さカの一ノ如ク喙尖り毎
ニ厨下に出て食物を竊む全体臭氣有て近はく
可らも猫カ亦其臭と悪んで之を捕らすと云ふ
鼯ハ其状鼠に似て肥大あり毛ハ赤褐色ありて
頭の短きカと猪の如ク脚短く一て尾の長と

鼯の圖



寸余あり鼻ハ硬く一て白一長
と五六分ありて下背短く眼ハ
極めて小さく一て眶あり耳ニ
珥あり手の太さ足ニ倍一常に

地中にお在て土を掘り鼻を用いて探さ行く毎に
蚯蚓を食とす

鼯鼠ハ其状も鼠に似て鼠よりハ体太し頭ハ
兎に似て尾ハ太し常に山中古樹の穴に巢を
作り善く鳴き善く人の如く立つ毎に喜んで



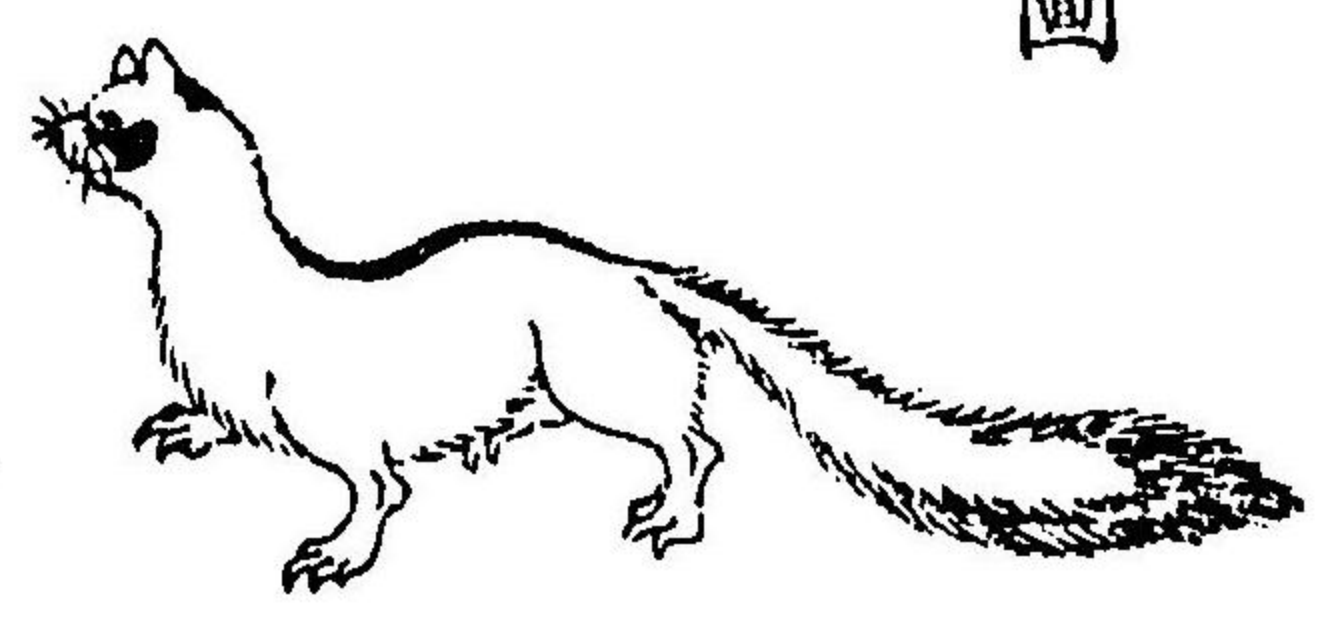
鼯鼠の圖

栗柿葡萄の果を食ふ身
ハ輕捷にして飛ぶこと
速し日温らふて腹滿
てハ石上樹梢に踞立
其齒勁くして鉄の如し

若しおとせしと捕んよハ鐵網を用ひされハ能は
と云ふ

鼯ハ鼠に似て身ハ長し尾ハ長大にして全体の
色黄褐あり其氣極めて惡臭あり其身柔撓し

鼯の圖



て小さき穴と雖も反轉して
出てさるおとあり其毫と尾
と筆に作るべし能く鳥鼠と
捕へ血を吮て全くこれと食
ハ其其他水鼯あり常に水に
入て魚を捕る性蟾蜍を畏る

若く相見るとききの因迷を
 狢ハ鼠の似て毛ハ刺の如く豪猪に似て蜷縮を
 るとききの栗の房の如く
 鼯ハ鼠の属にして常に土穴の中ハ居て喜んで
 竹根を食ふ其体の大ハあるものハ兎の如く其
 肉の味ハ鴨の如く

招シロの圖



招ハ鼠の属にして狀ち鼯
 類にして身長く太さ獺の
 如く全身黄黑色にして其
 毛の深さ寸余あり胸腹褐

色にして頬短く寒月之と服をるゝ暖くあり

猴類

猩々の其狀ち猴の如くにして面ハ人々類に足
 を人々類を其聲兒の啼く如く亦犬の吠る
 う如く性好んで酒を飲む其牝の如きハ能く子
 を愛す子も亦親を戀ふ

猩シロ々の圖



出と人の如くと云ふ
 獼猴ハ狀ち人の如くハ
 して眼ハ愁胡の如く手
 足も亦人の如く頬陷む

猴の圖



嘍わり其性狡猾にして
 諸獸を視せし最も靈と
 して菓物と食ひ林を捷
 捷と飛ぶの
 捷き者と鳥の如く瓜哇國の山中に猴多くして
 人々畏れを呼ぶ大猴先つ至る之を投ずるは
 菓實を以て以食ひ畢せし群猴來りて其余りと
 食ふと云ふ
 猴の其状も猴に似て長大あり其臂甚る長く其
 毛色の各々一あらは黄色ありて玉面あるもの

猴の圖



あり黒色ありて身面共
 黒きものゆり其性靜
 りて仁慈あり常に居
 ること林中ありて善く
 樹木を攀ち其聲哀しく
 して人の肝脾を入る毎に果實を食とせり
 果然ハ其体猴よりハ大かりて面白く頬黒く髯
 多し全身の長さ三尺かりて尾ハ身より長し全
 身の毛柔うふして細く滑白質ありて黒き文あり
 り恰も蒼鴨の如し尾の末は岐なりて鼻孔天に

果然の圖



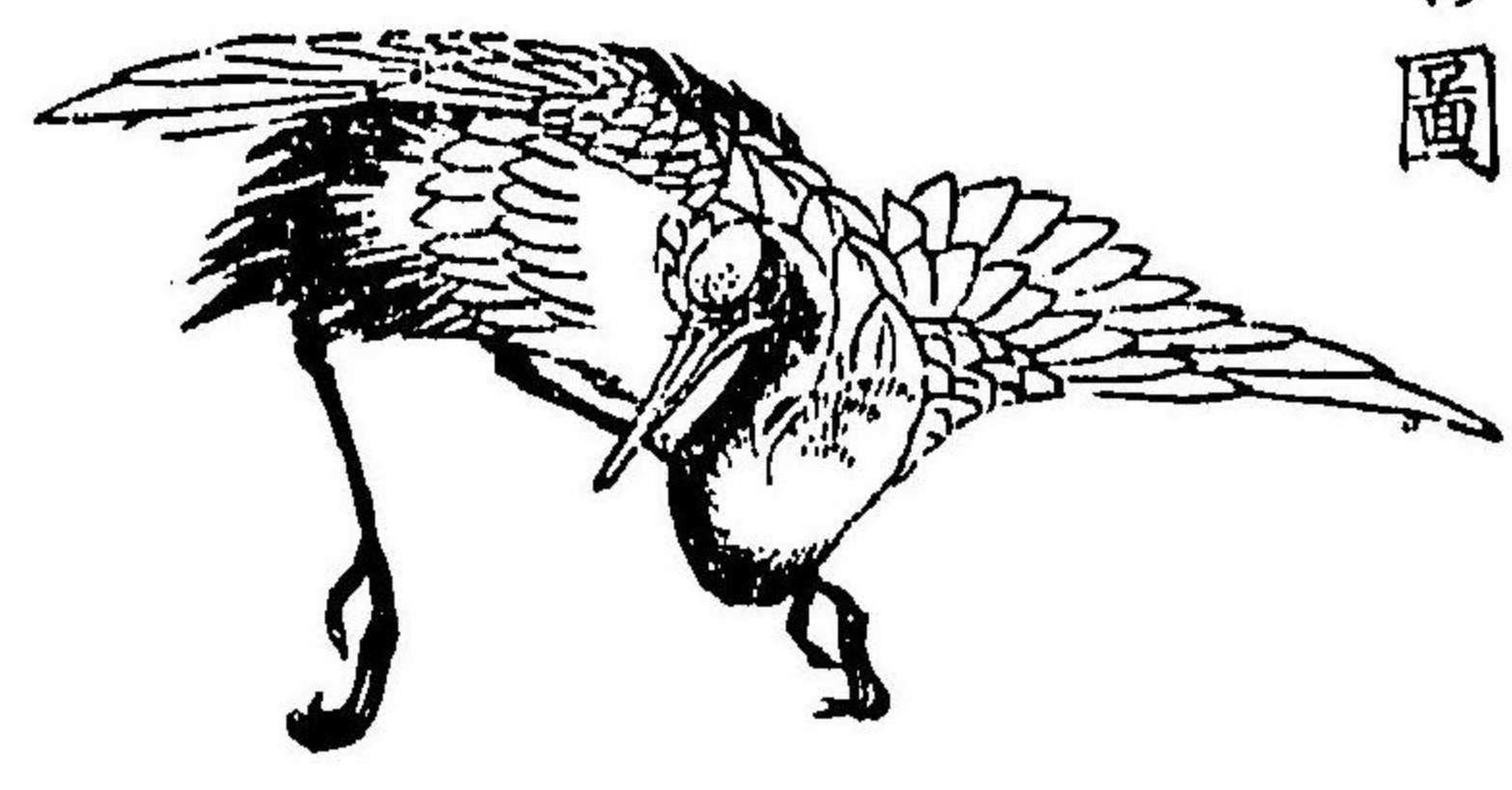
向ふ雨ふるときハ尾の
 岐を以て鼻孔を塞く喜
 んて毎ニ群行を老たる
 此のハ前きふ少きハ
 のハ后に行く食へハ讓
 と居まハ愛を自ら禮讓
 とするまの如く若し
 人ありて其一と捕れハ
 群を啼て相赴くこれと
 殺せとも去らばと云ふ
 狒々ハ其狀ち人の如く
 ふして全身の毛ハ黒色
 あり面も亦た人此如く
 して髪を被むる迅走

して人と食ふ身の丈一丈余あり

禽類

鶴ハ其狀ち大ひふして長け三尺余寸あり頂き
 丹にして赤き目赤き頬青き脚あり羽ハ白く翎

鶴の圖



ハ黒くして亦灰色蒼色の
 のえあり其他真鶴黒鶴白鶴
 あり其真雀ハ高さ四五尺あり
 して頂ニ丹無し頬赤くして
 全身灰白色あり其黒雀ハ高
 さ三四尺あり頸白く頬赤く

して其余ハ黑色あり其白雀ハ頰赤く翎玄く脚
 赤く其余ハ皆赤白色あり都て雀の性たろや皆
 智あり卵を池島に育て狐犬の害を防く初め卵
 を生んとするは雄雀先づ其地をトして地を
 寸々に啄刺を以て蟲蛇を伏せ使わ以然して後
 卵を生ひ一卵は七八の卵を生ひ其雛初め黄
 毛ありて嘴白く翼短くして脛長し
 鶉鶉ハ其状ち雀の如くありて其毛色ハ青蒼あ
 り頭を舉げハ高さ六七尺あり翼を張るとハ廣さ
 五六尺あり頸長く目赤くして頭項方二寸紅色

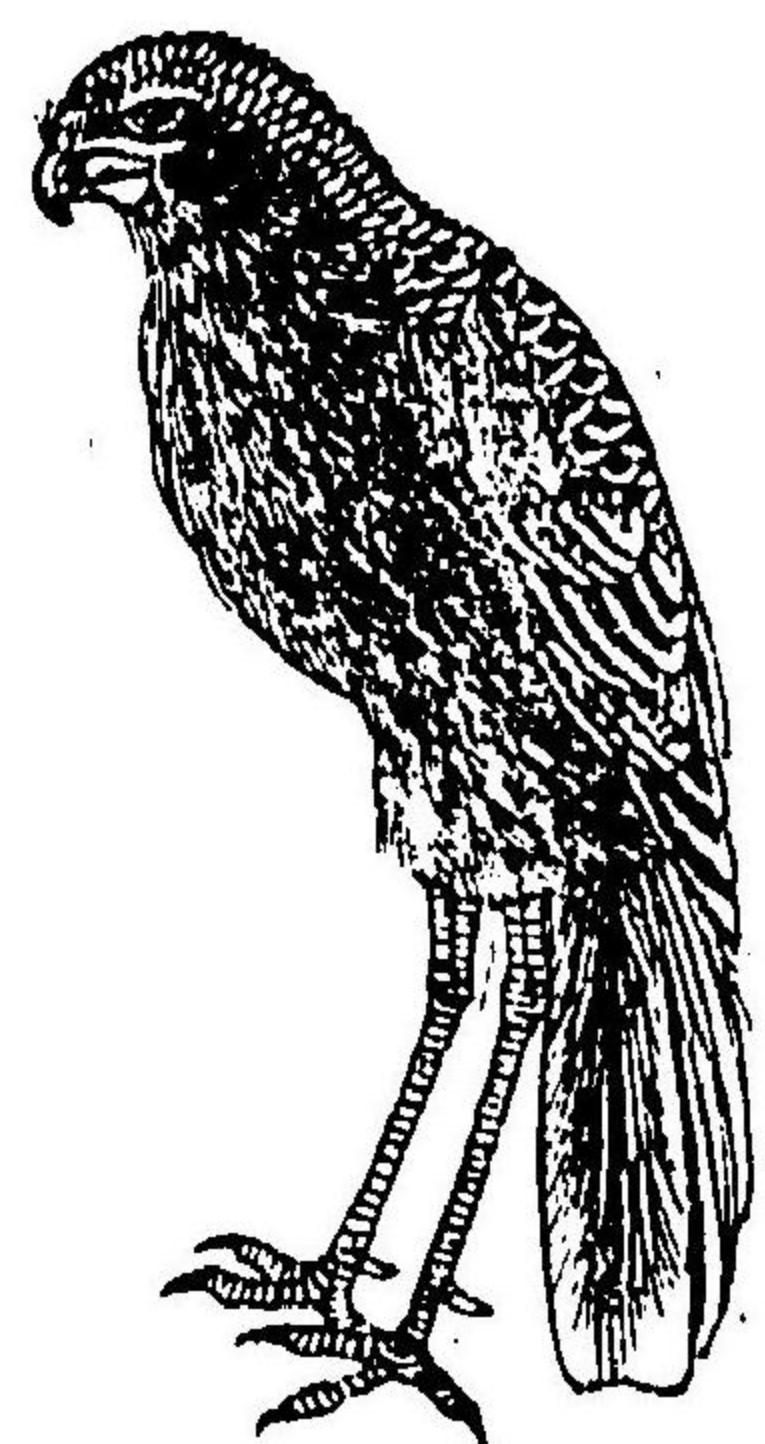


鶉鶉の圖

ありて恰も雀の頭項の
 如く其喙深黄色ありて
 扁直長と一尺余寸あり
 其足の爪ハ雞の如くは
 して黒色あり性極めて
 貪惡ありて能く人と闘

ぶ好んで常ハ魚蛇を食とあり
 鶉鶉ハ其大きと孔雀の如く状ハ鳥鶯の如くあり
 して足長し喙の長と一尺余黄白黒の色ありて
 勾の末冠の如く殆んど二升計と入る以て酒器

鸞鷁の圖



とあはれ〜足長けれし
水地を踐まは又江湖を
飲ます又百草を啜はと
又魚類を食まはして木葉
を食とせり其糞取つて

香とあは

雁ハ水鳥の一かして真雁、白腹、雁金、白雁の四種
とあす其真雁ハ蒼黒〜して胸腹は白黒に斑ら
あり其背白く脚黄か〜して肉ハ最も美味あり白
腹ハ即ち真雁の長せさるるをいふ〜して斑らあり

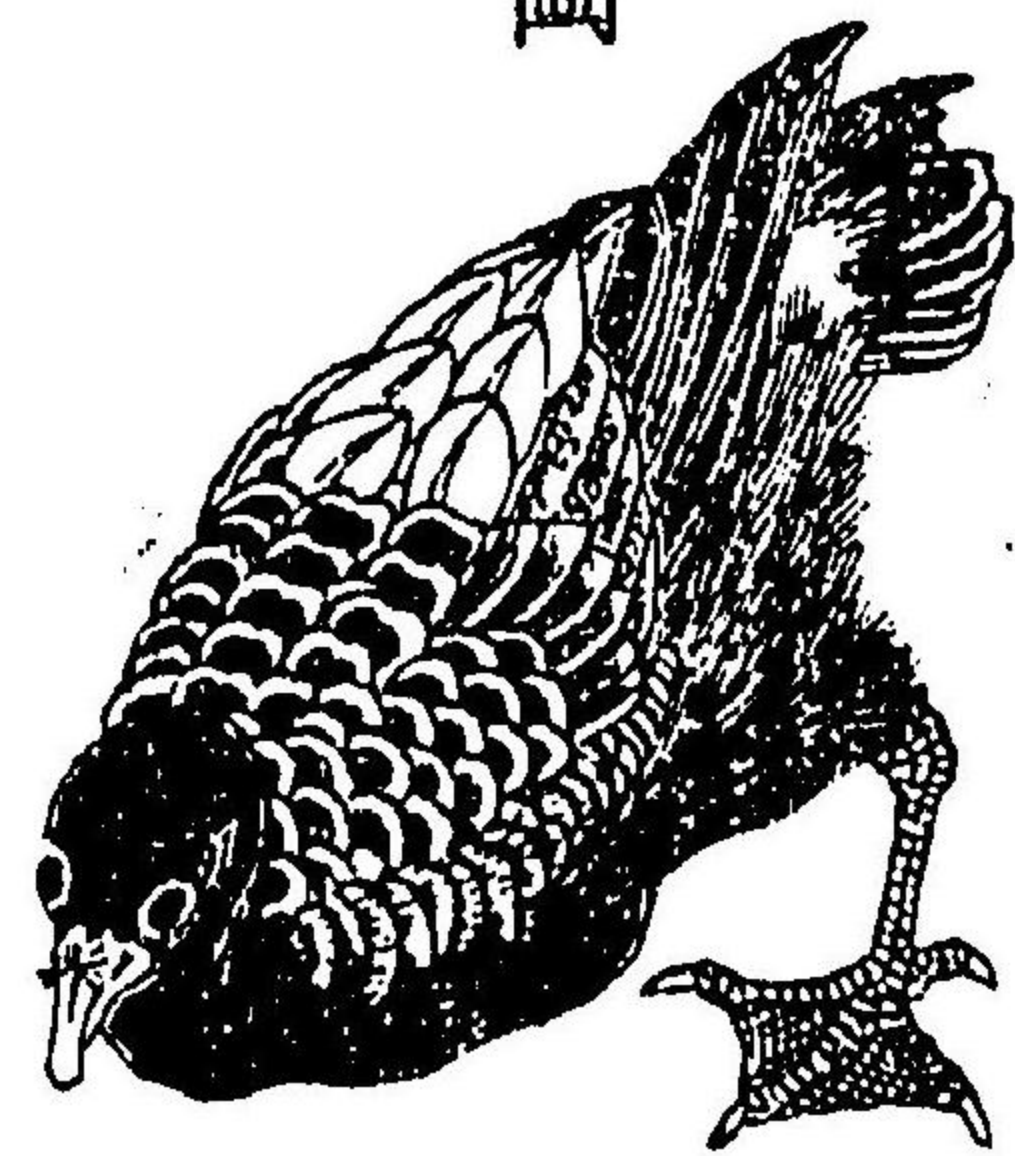


雁の圖

雁金ハ其大ききと白腹雁
め如くい〜して全体蒼黒
あり嘴赤く〜して脚黄か
と白雁ハ全体白く翅翹
黒く嘴と足とハ赤色か

且中秋の頃白雁來て雁金又これ〜次ぎ真雁又
あまはこれ次く仲春い〜してあま歸る雁の性た
や雌雄相並んで行列とあは飛ぶときハ序あり
鴻ハ其狀ち雁か類〜して大いあり背と頸と共
灰色い〜して尾の本白く末黒く嘴黒く脚黄い〜

鴻の圖



て鼻の辺りに黄條あり
一種加豆羅麥と云ふ
のなり状鴻より小なり
して背と頸と共々灰色
あり其頸の柿色の斑ら

あり背正黒ふして扁く翮尾ハ鴻ニ同

鶯ハ其状雁に似て人家に畜ふるのあり其全身
蒼白の二色あり眼ハ緑にして喙黄なり其掌紅
色ふして夜能く鳴く性蛇と蚓と好むものあり
鶉ハ其状雁に似て頭頸灰白色あり背の端黒く

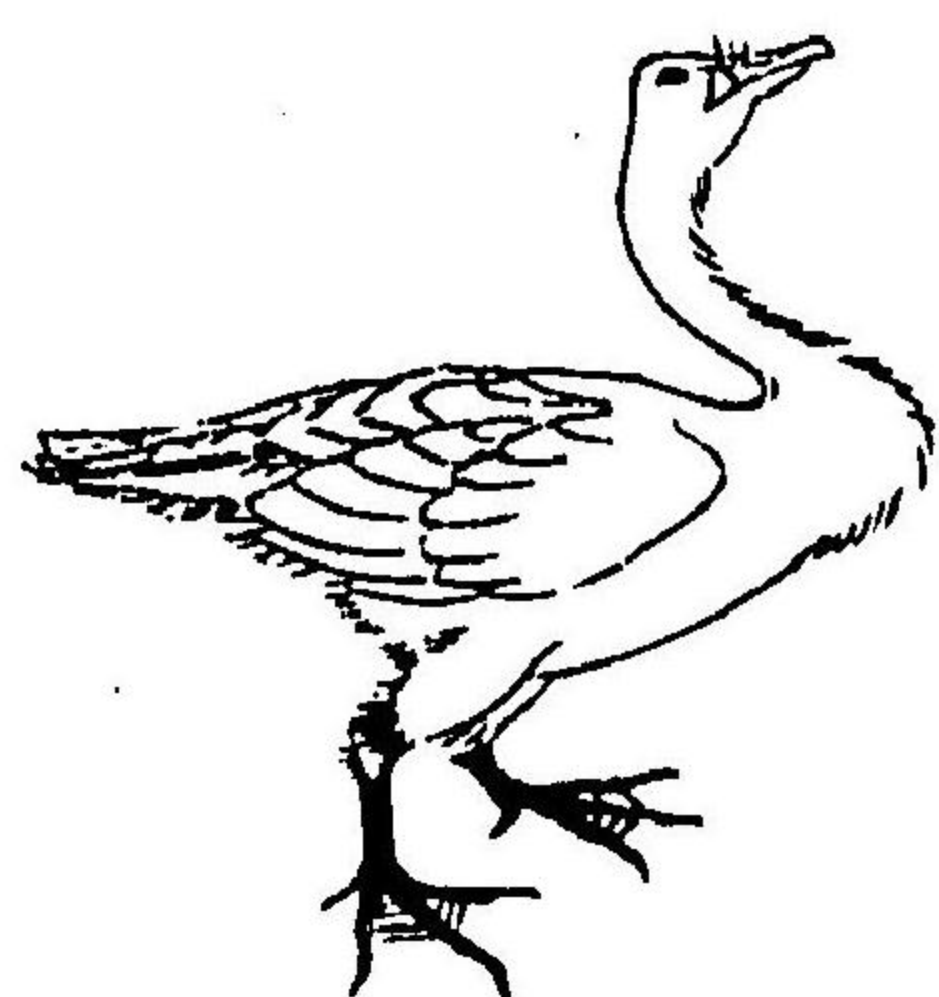
鶯の圖



して背に紫黄赤の豹文
あり翮黒くして腹白く
脚掌蒼黒ふして蹠あり
又口の舌あり性淫
て定匹あり

天鶯ハ其状白雁に似て項頸長く肥大あり羽毛
白澤にして背脚共々黒色あり其翔る處と極り
て高く善く歩む其翅骨甚だ強くして鷹に劣す
是ハこれヲ免ハ搏被と云ふ
鶯ハ人家に畜ふる鳥にして雄鶯ハ頭緑くして

鶯の圖

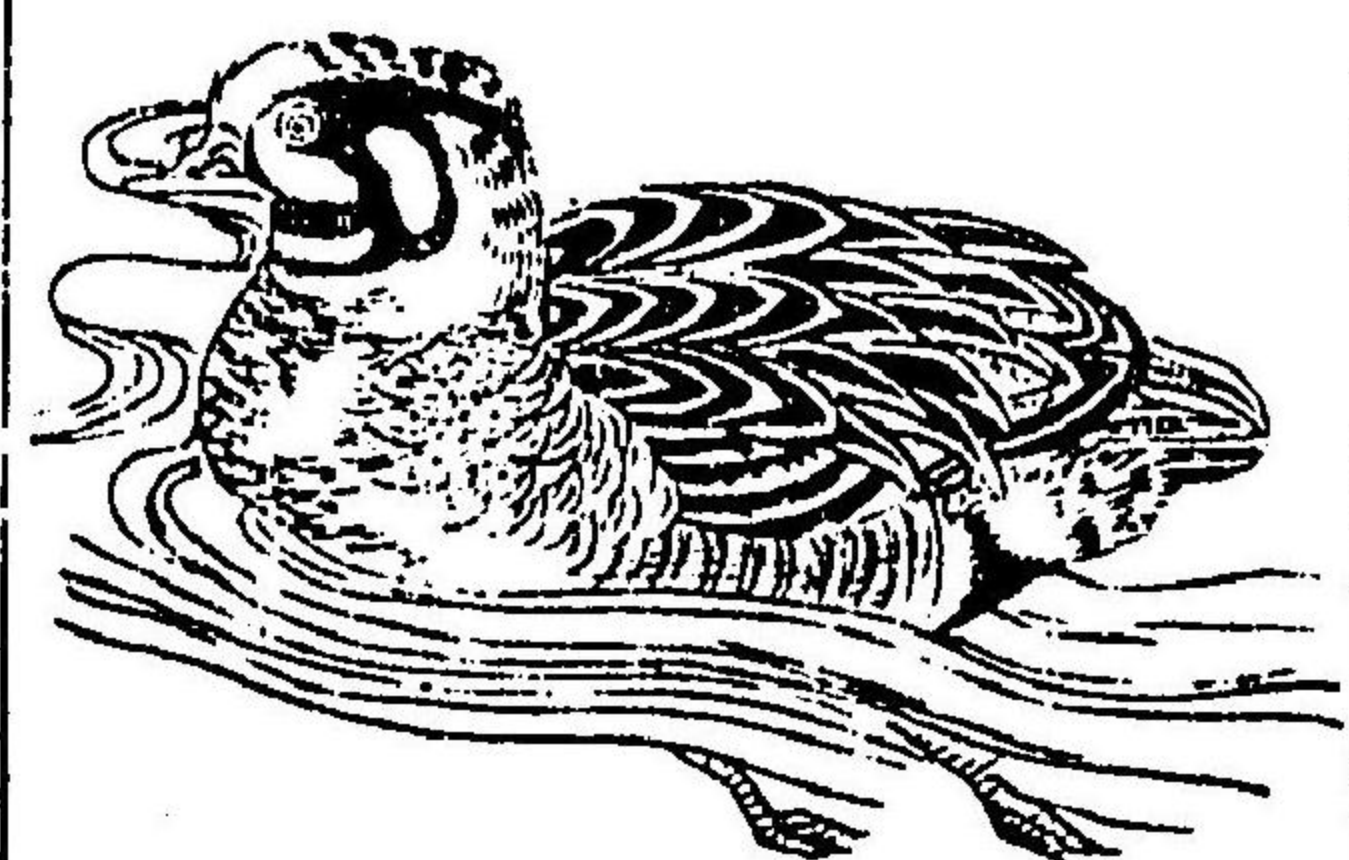


翅は文あり雌鶯は黄斑あり毎の溝泥を好りて蚯蚓を啄み穢水を啜り其飛ふこと一歩は過きを嘴の如くかいて尖

らけ又一種鳥鶯あるものなり形全く鳥に似て其飛ふこと鶯より捷しと云ふ

鳥は其狀鴨に似て其種類太多し頭頸深紅かして喉下白し胸紫ふして黒點あり腹毛灰白にして淡紫の色を帯ふ嘴蒼く啄短く掌紅かして

鳥の圖



口鳥黒鳥等あり

脚卑し毎の數百群とあり晨夜は空を蔽ふて飛聲風雨の來る如く其他輕鳥尾長鳥羽白鳥大明鳥赤頭鳥葦鳥蘆鳥

鷓鴣は其狀鳥に似て小く雄鷓鴣は頭頸紫色かいて眼の後を青色ある毛あり背は赤色を帯て花文あり兩脇碧くして白條あり胸は黄くして赤黒ある點あり翅は蒼くして緑白黒の羽を交ぬ

鵞の圖



背と脚とハ其ニ黒色に
して赤きと帯ふ雌鵞ハ
淡黄ふして黒色と雜々
頭灰色あり毎ニ數百群
とありて高く飛ぶ性能

泥及び水草の根を食ふ其他美古鳧鈴鳧等の種
あり

味鳧ハ其狀鳧に似て小さく鵞より大なり
其頭の毛青緑ふして黄赤と帯ふ其背脚共ニ黒
色ふして翅灰色あり胸赤黄ふして小さく黒點

あり腹明白ふして背灰白あり毎ニ數百群を
あし肉味鵞に類すと云ふ

鵞鵞ハ鵞に似て小さく全身の色黒ふして鵞の

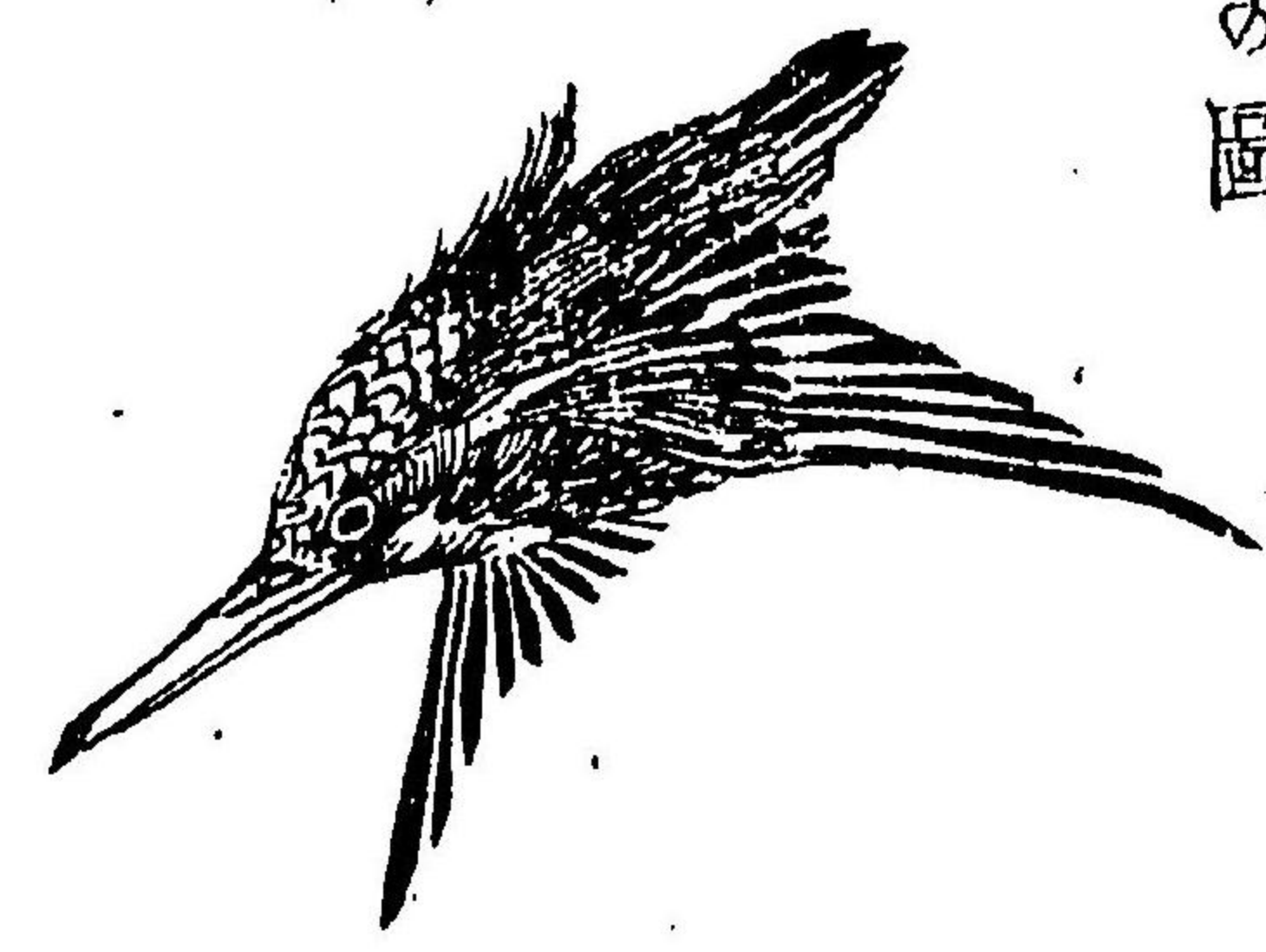
鵞鵞の圖



如し喙長く微く曲り善
く水に没して魚を捕る
日ハ洲渚に集り夜ハ林
樹に巢ふ漁舟數十の鵞
鵞を縻畜して魚を捕ら
し其性好んで鮎を捕
る初め横に鮎の頭を咬

へ頰を以水に投して之を殺し首より之を吞て
蹴々と羽を振へば鮎腹中に潰ゆと云ふ
鷓ハ其状も鷓鴣に似て白色あり性善く飛ぶ
のあり

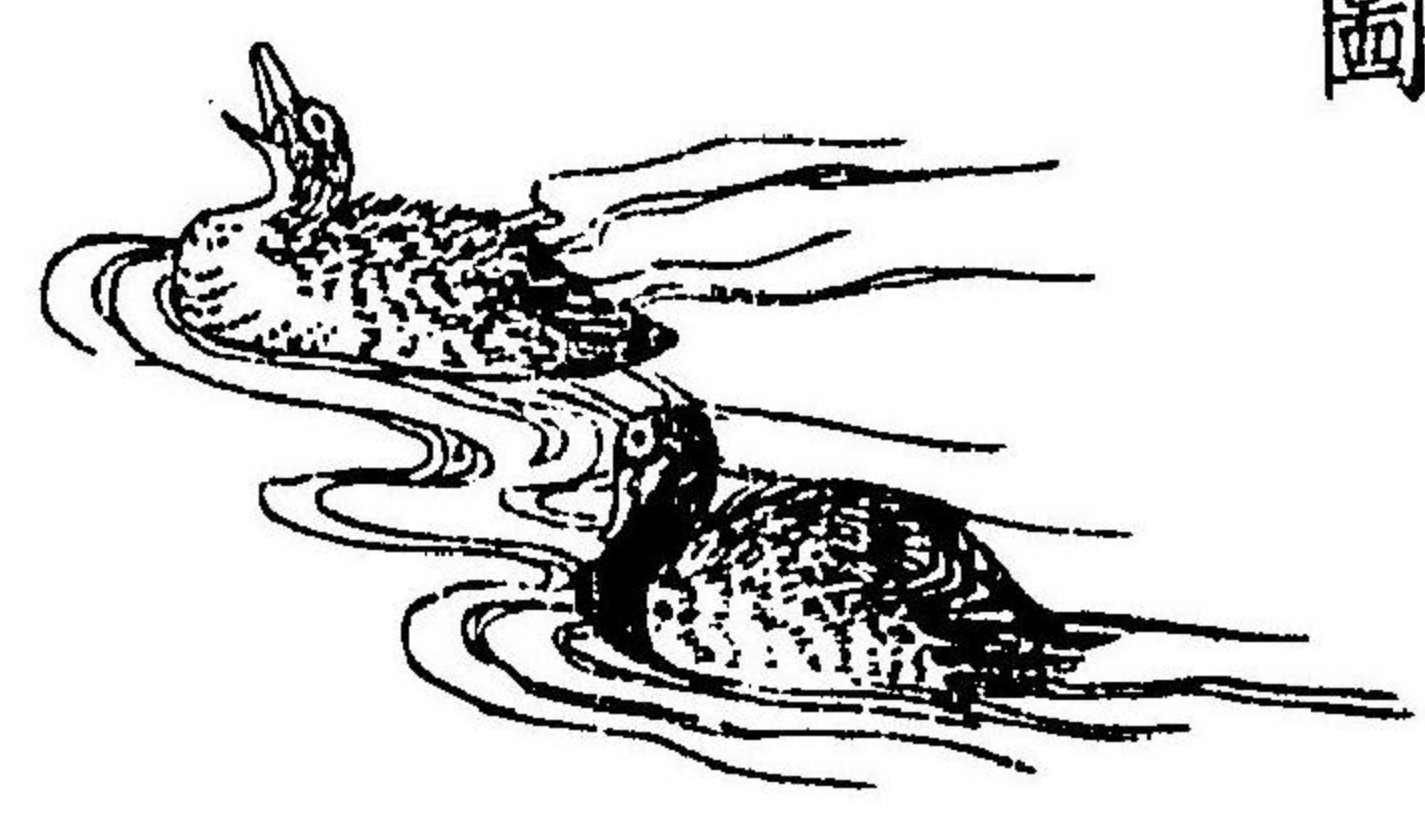
鷓の圖



鷓ハ水涯に在る鳥にして
其大ききと燕の如し喙尖く
長く足紅にして短し背毛
翠色碧翅を帯ひ性能く水
上をて魚を捕る一種翡翠
と云ふものあり即ち鷓の

大なるものありて形大きく山溪に在りて魚を
捕る穴を築て造り深く入ると尺余あり
鷓鴣ハ其状鳥に似て小さく其大ききと鷓の如し
其頭赤くして翅黒し羽の本白くして背ハ灰色

鷓鴣の圖



あり腹白くして背黒し掌
の色紅あり脚ハ鴨脚の如
し全身蒼白の文ありて陸
行をると能はず常に水
中にお在りて小魚を食ふ若し
人至るときハ即ち水中に

沉む雌ハ其体稍小くして其頭赤らば其肉
の味ハハ臊氣有て佳あらば
鴛鴦ハ鳧の類ハふして湖溪ニ在て土穴の中ニ
棲むハのふり其大きき小鴨の如く其毛羽五彩

鴛鴦の圖



ふして頭らハ玄き纓あ
り頭ニ紅の絲あり背に
小きハ羽あり其形扇の
半辺の如く俗ニとせと
劍の羽と云ふ雌ハ蒼色
ふして目の後へハ白條

あり翅尾共ニ黒くして腹ハ黄あり雄雌常に相
離さば若し入りて其一と捕れハ一ハ相思し
て死す其雌の如きは孕して卵を生むときハ菰
葦の間ニ抱伏せり



鸕鷀の圖

鸕鷀ハ其狀鴛鴦の如く
ふして大ハあり其全身
紫色多くして羽毛ハ五
采あり首ハ纓あり尾ニ
毛あり其形船の舵の如
く常に游ぐに雄ハ左ハ

雌ハ右カシテ羣伍ト亂ス以専ラ短爪ト食ト
セリ性ハ邪ト尋ニ害成逐ふカメアリ
鳩鵲ハ其大きニ鳥ノ如クカシテ脚高雞ニ似テ
喙長ク好ク啄む其頭項ハ紅色ニシテ恰ル冠ノ

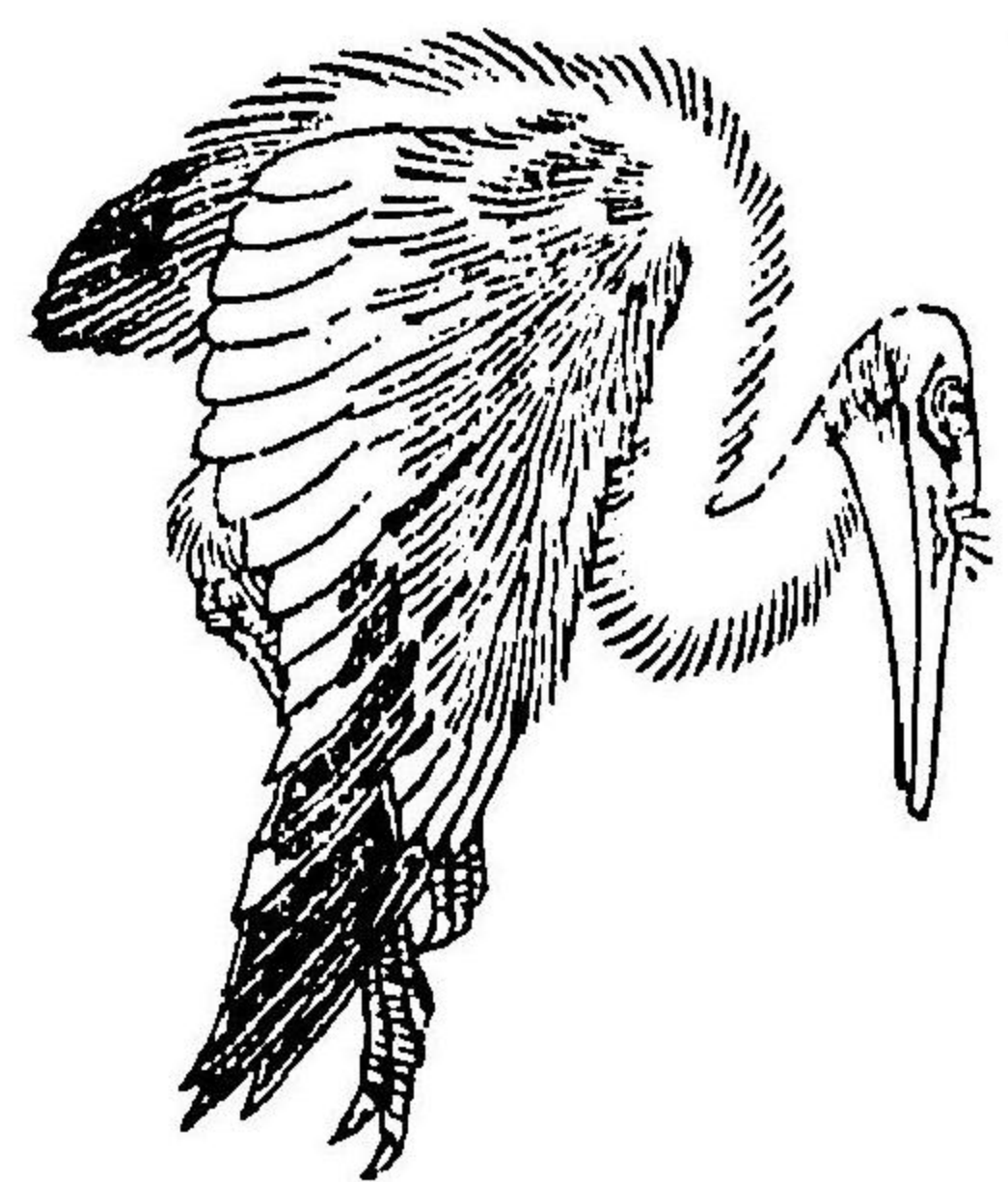
蒼鳥の圖



如シ背ハ蒼色カシテ腹
ハ黄白アリ喙ハ長ク
ク灰色脚ハ黄アリ高樹
ノ枝カ巢ト造リ子ト穴
中カ生む肉ノ味ハ秋夏
ハ佳カシテ冬ハ佳カ

を
旋日鳥ハ大ニ鷺ノ如ク尾ハ短クシテ紅白色カ
リ項毛冠ノ如ク背ハ灰黒カシテ腹ニ灰白ノ斑
カシテ翅ハ灰色カシテ白キ圓紋アリ目ハ深ク
テ旁ニ長キ毛アリ喙ハ蒼ク脚ハ青ク掌ハ黄カ

鴈の圖



り
鴈ハ其狀鷗鷺ニ似テ全
身蒼黒アリ頭に白肉ノ
冠カシテ足赤クシテ常カ
田澤ノ中カ在リ若シ人

と見逃ハ鳴喚して去らす俗とこれと護田鳥と云ふ一々世々利と云ふ小魚と食と亦ハ

鷺ハ水鳥の一ハ一ハて全身の潔白あると雪の如く頸細く一ハ長く惟脚と啄と黒く一ハ指の

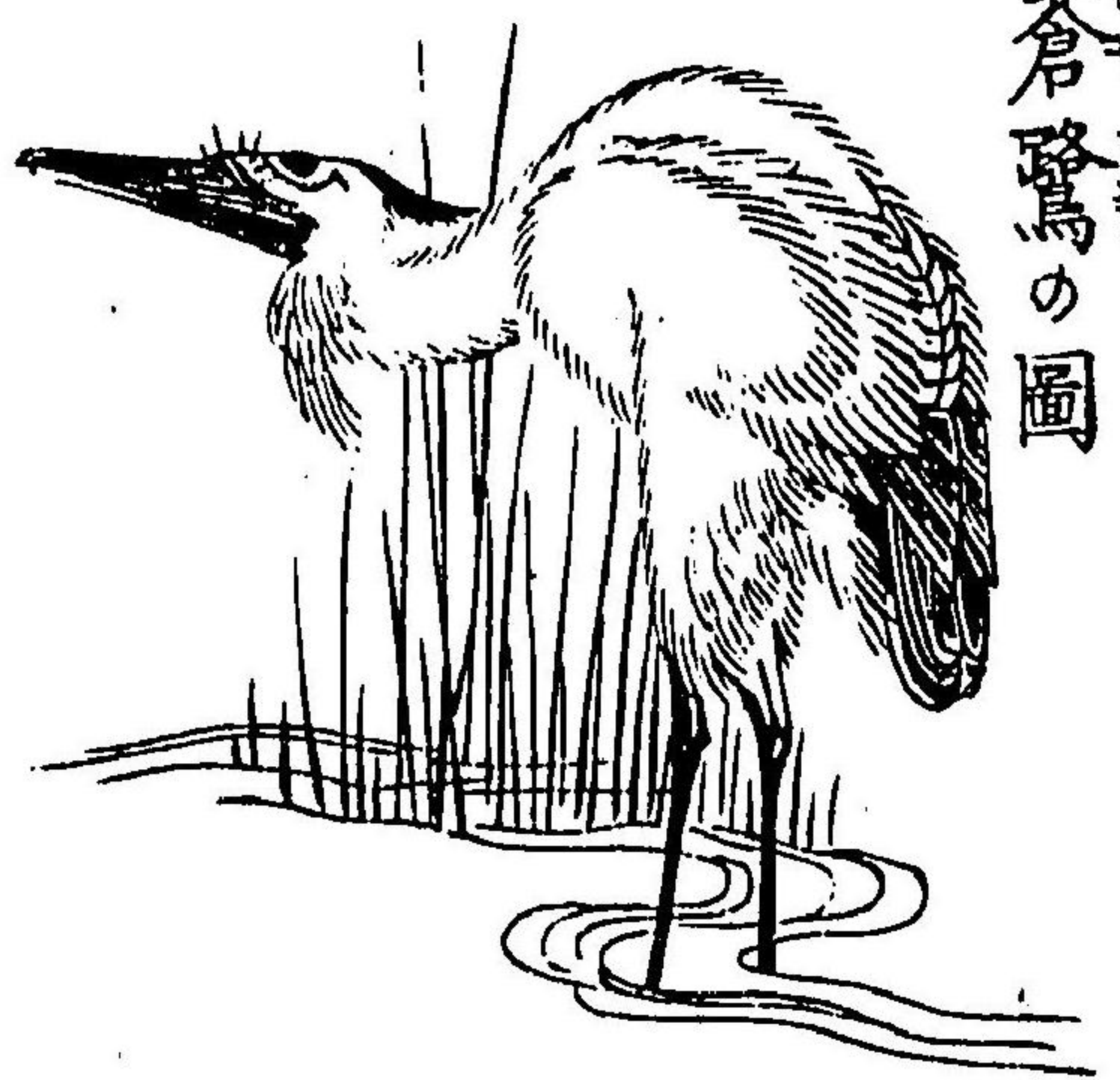


色黄あり脚尤も長く一ハ善く翹る高さ一尺余寸あり尾短く一ハ啄の長さ三寸余あり項の長き毛數十あり形ち絲の如く常ハ浅水に歩

好んで魚を食と亦ハ常に水中に於て低昂を其形人の春り如く其他ハ一種小鷺あり

蒼鷺ハ其狀鷺に似て大きく頭背翅皆蒼黒あり一ハ項ハ冠毛あり其色ハ亦蒼黒あり頭より胸に

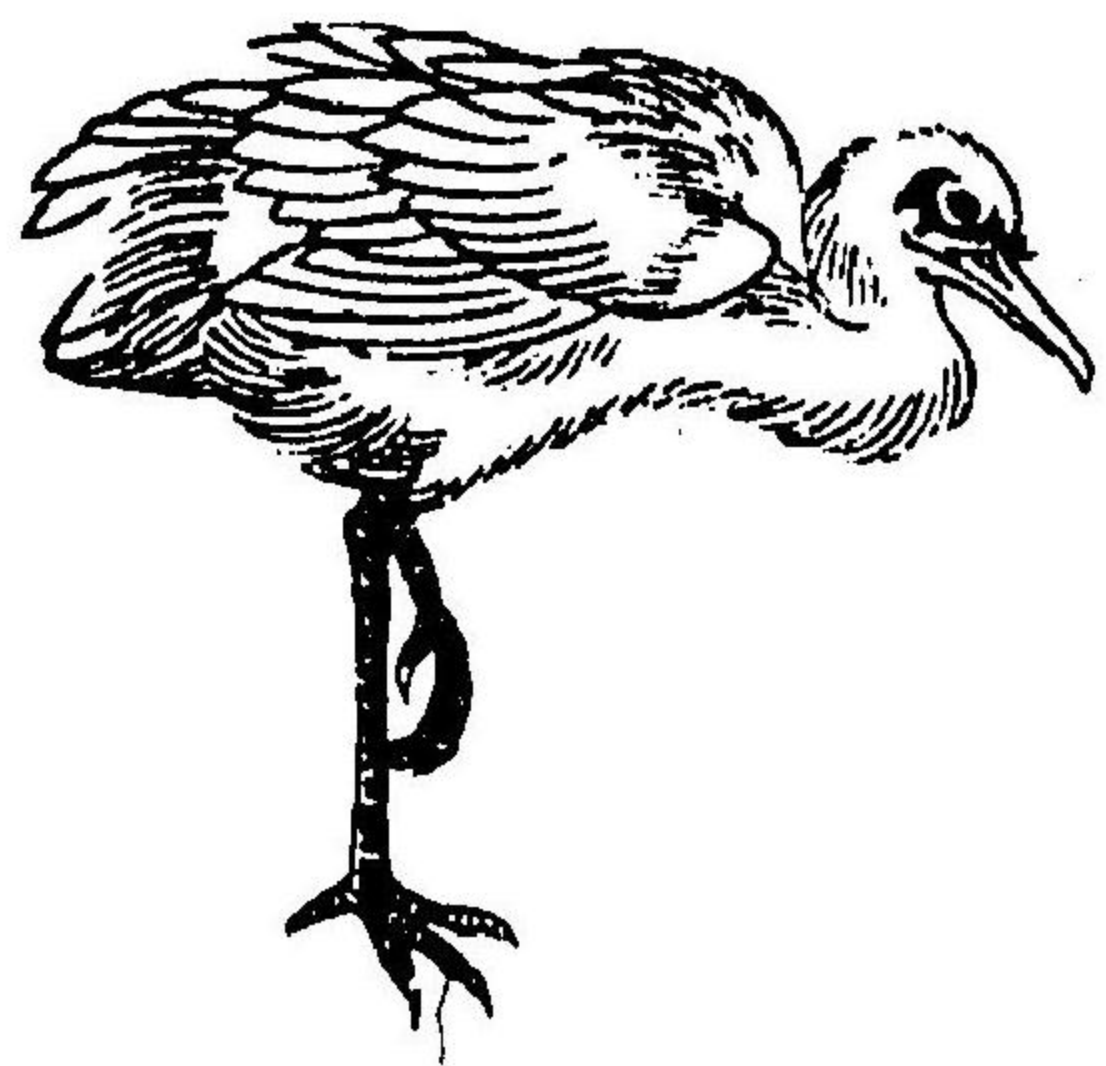
蒼鷺の圖



至りて黒毛の斑あり翅の端正黒あり一ハ背の外黒く内黄あり腹白く一ハ脚縁あり毎ハ水辺に歩きて小魚を食とせり飛ぶときは高く舉り翔

るときハ遠く行くものあり
 白鶴子ハ其狀鷺の如く白脚ハ高くして灰黒
 あり啄ハ長くして黄色あり項ニ冠毛ありして
 恰ル鶴の子に如し

朱鷺
 の圖

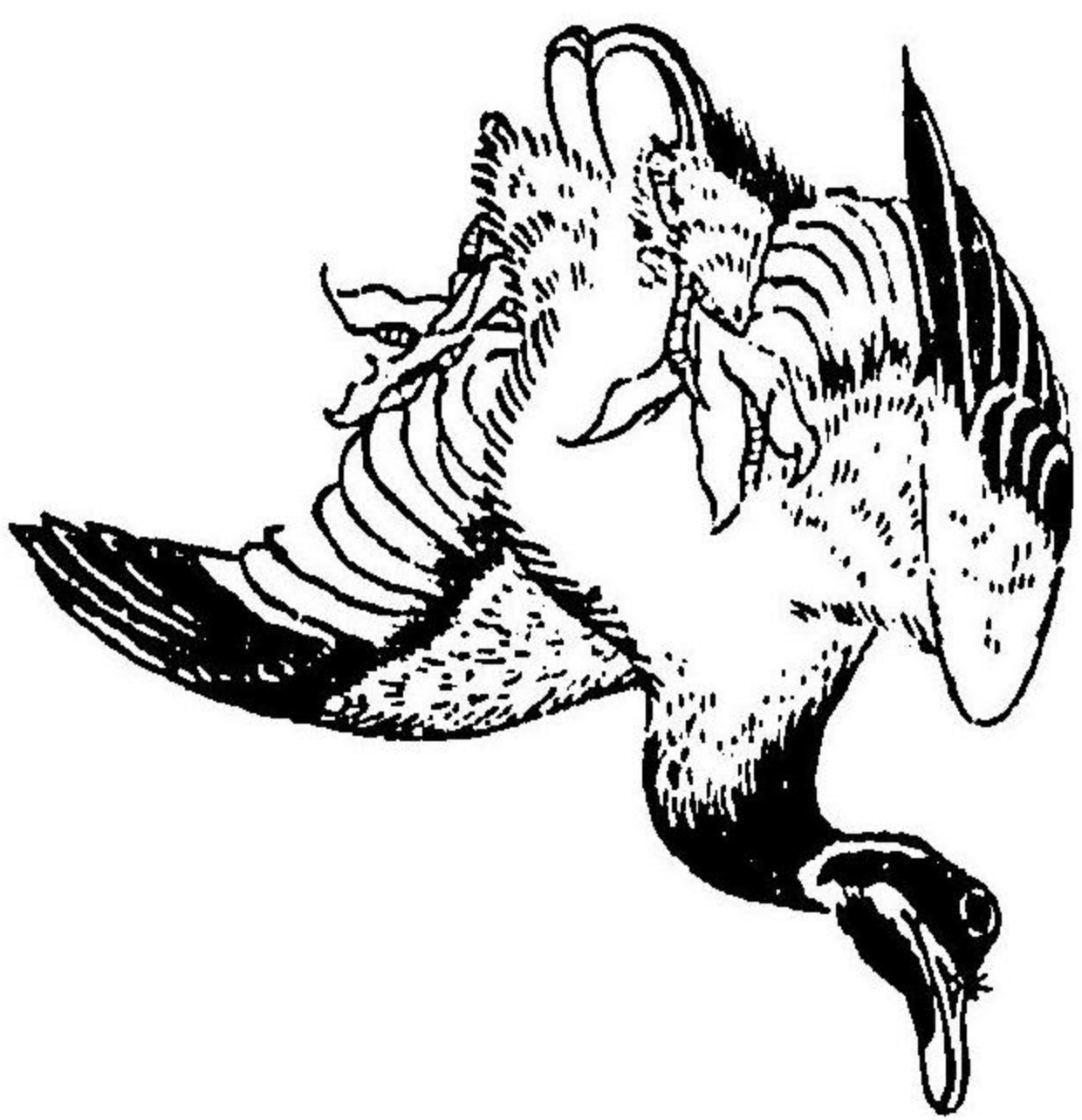


朱鷺ハ其狀鷺に似て項
 に冠毛あり全体紅色と
 帯て翎莖最ニ紅あり背
 長くして末勾り黒色あ
 り脚赤く翅白く高樹ニ
 巢て造り水中に宿を能

く高く飛んで魚と食とせり肉ニ臊氣あつて味
 凶佳あらず俗にこれと止木と云ふ

鏡鷺ハ其狀白鷺に似たり其毛色純白あらはして
 微しく灰色と帯ふ頭ハ冠毛あり啄長くして其

鷓鴣の圖



本黄末黒し其狀圓く
 て匙の如く且つ鏡の如
 し性能く群て成を背と
 以て泥と洵て魚と求む
 其小あり羽の莖
 黒し

鸚鵡ハ狀鳥似て大きく項長く目赤く背ハ斑
らみして毛ハ紫紺あり文彩ありて鳳の如き
のあり

鷓鴣ハ其狀小き白鴿の如く脚長くして喙長く

鷓鴣の圖



常ハ水上に浮んで軽く
泳ぐこと漚の如く頭背
身脚背皆灰色ありて腹
正白あり項短くして
恰ハ鳩の如く其大なり
まのふり羽の端は白き

圓文あり矢の羽又造りて最も宜くと云

善知鳥ハ鷓鴣の属ありて形色共ニ鷓鴣に似たり背

ハ黄みして末勾り脚淡赤ありて毎ニ潮隨て往

來す之と信鳥と云ふ

蚊母鳥ハ池澤又生るものありて其大ききと雞

の黑色ありう如く其聲

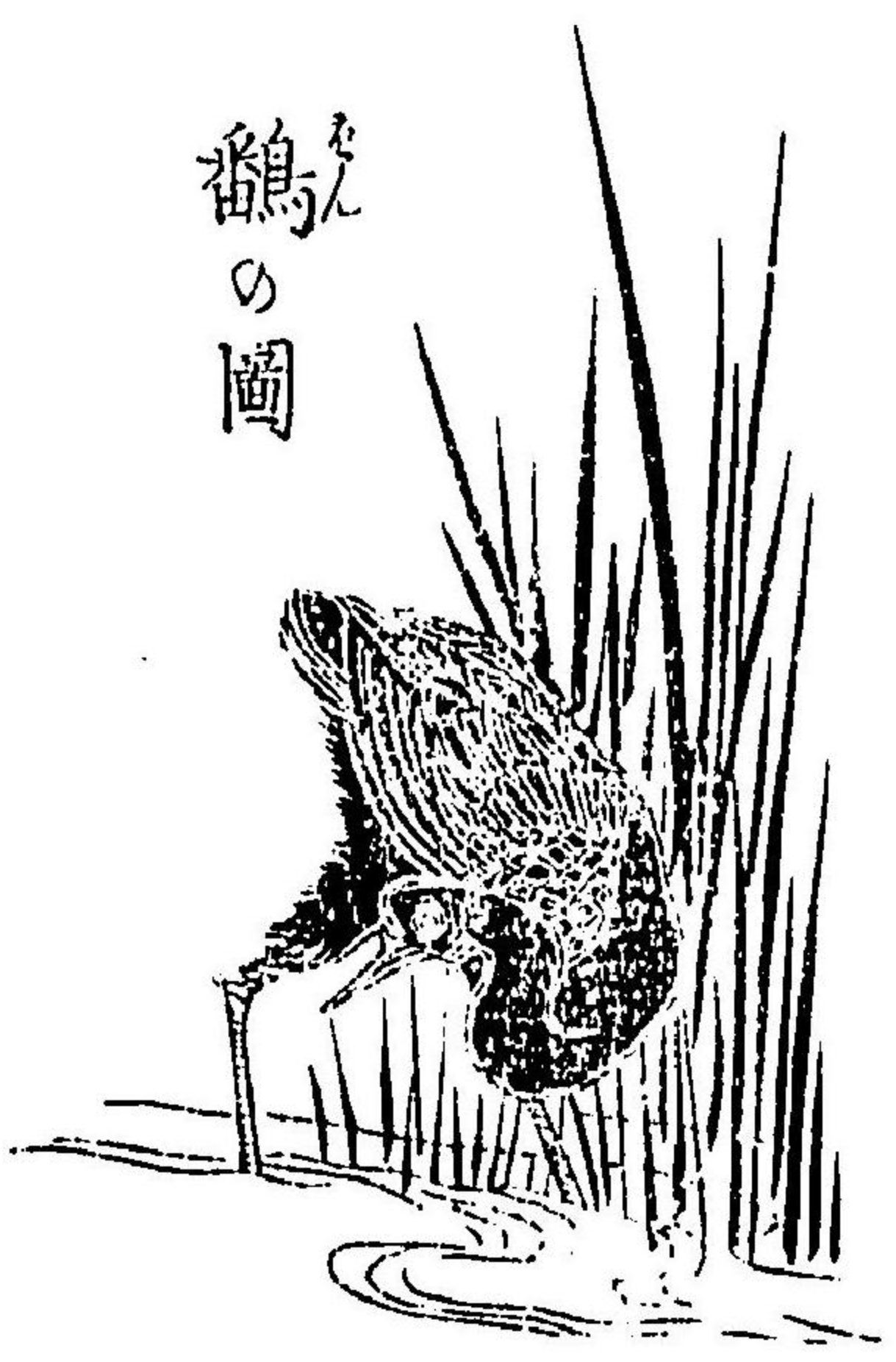
人の嘔吐するう如く毎

ニ口より蚊と吐出はる

のあり

鶴ハ其大さ鳩の如く其

鶴の圖



色黒くして尾短く嘴尖り本紅ふして末黄あり
 脚長くして常々田澤を鳴く一種大鶴と云ふもの
 あり其形鶴に似て大ひあり其嘴白くして額の
 下と鼻の上の白き肉瘤あり脚の毛黒色あり鶴
 の脚より短くくして掌は鵝鵝に似あり雌は小

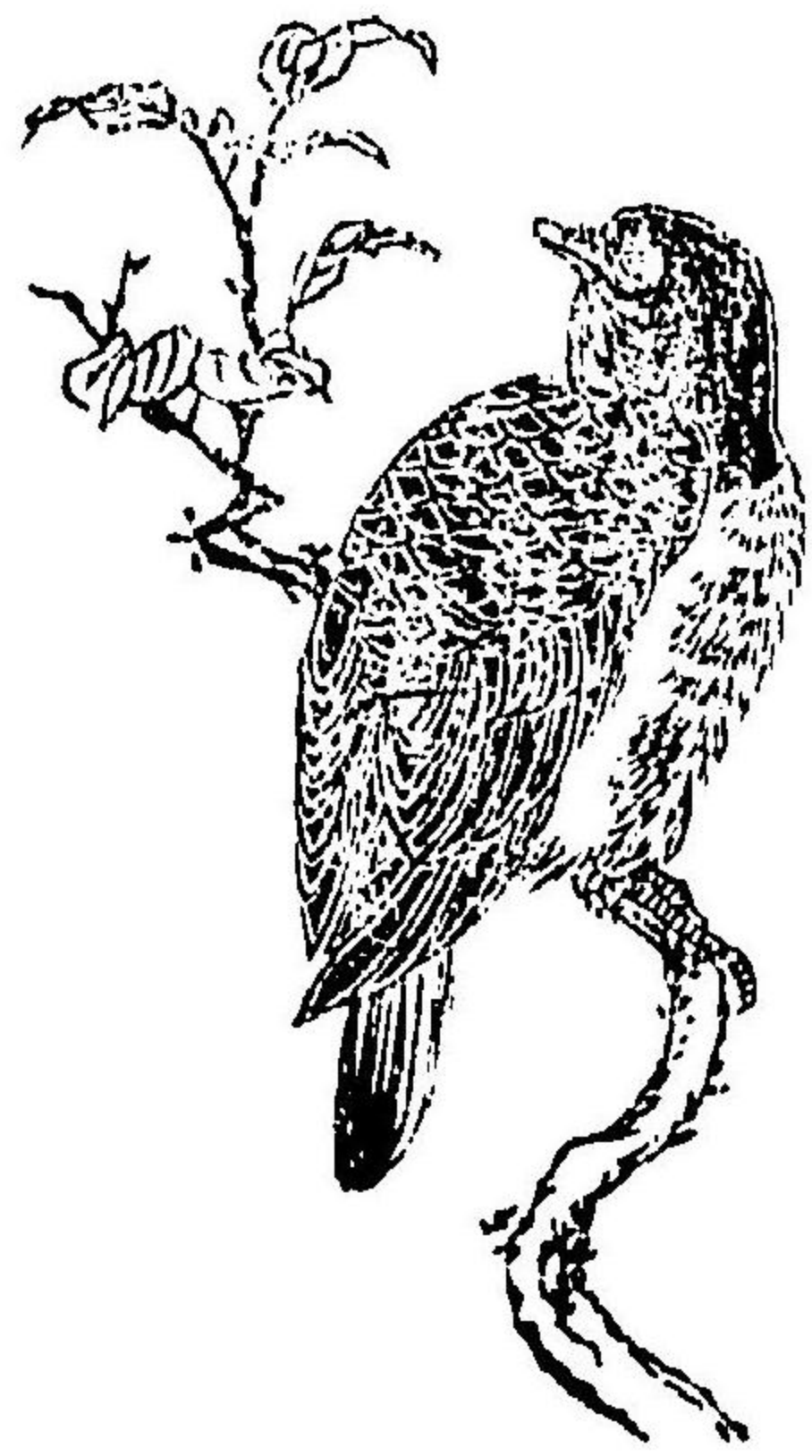
河鴉の圖



さくくして鼻の瘤あり
 河鴉は其大きき鴉鴉に
 似て全体黒色あり深
 山或は谷川に居る飛ぶ
 ると甚だ高うらす捷速

かして捕へ難し其嘴脚共に黒色あり
 計里は其状鳩に似て頭背共に灰黒ふして胸腹
 共に白色あり翎の末黒く尾短くくして無う如
 く黒き斑らあり背黄赤ふして末黒く常に河岸
 に遊んで能く魚を捕る一種山計里と云ふもの

計里の圖



は状計里の類して頭背
 翅共に青黒くして翅の
 裏は淡赤色で帯ふ胸と
 腹とは白色ふして嘴黒
 く脚は赤黒あり此鳥も

亦九能く魚と捕て食とふ

水雞ハ其形鳩の如くふして頭と背と翅とみ黒
蒼の斑らなり眼の上に白條あり胸の間白く
て白黒の斑らあり脚長く尾短かく夜ハ鳴て且
ふ達す其聲人の戸と敲く如く常に水辺に在

水雞の圖



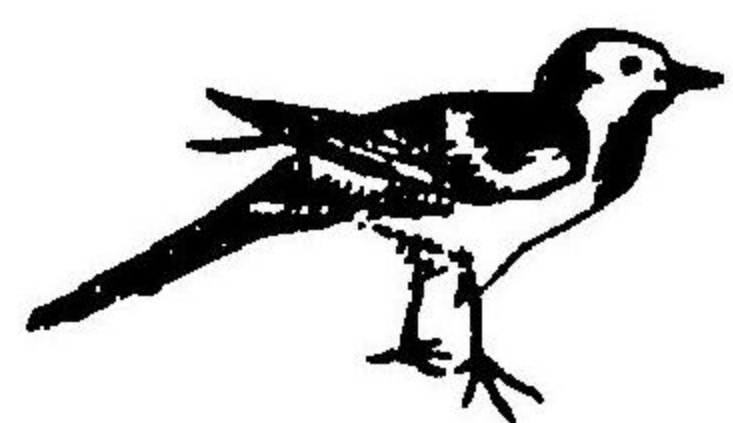
て晨と告く故又水雞の
名と下を一種赤水雞と
云ルのあり頭背黄赤と
して胸腹脚皆赤色あり
其他鼠水雞大水雞あり

大水雞ハ狀大ふして鷄と似たり三種皆戸と敲
く聲ハふ

鷄ハ其狀水雞に似て頭背灰色あり腹ハ白く翅
脚共ニ灰黒色ふして背ハ黒く飛ふことと捷くと
て捕へ難

鷓鴣ハ雀の属として其狀燕と似たり全身青灰

鷓鴣の圖



ふして尾長く背尖り腹
の下白く頸の下黒く
て狀連錢の如く毎ニ方
辺ハ鳴て能く首尾と揺

う以其他黄鶴、黒鶴、白鶴等の属はあり
 鶴其状鶴に似て小さく頭は蒼黒、頬
 白、眼の後へ黒條あり、翅は黒く、腹白、
 胸は黒く、嘴は蒼黒、尾は短く、背は黒

鶴の圖

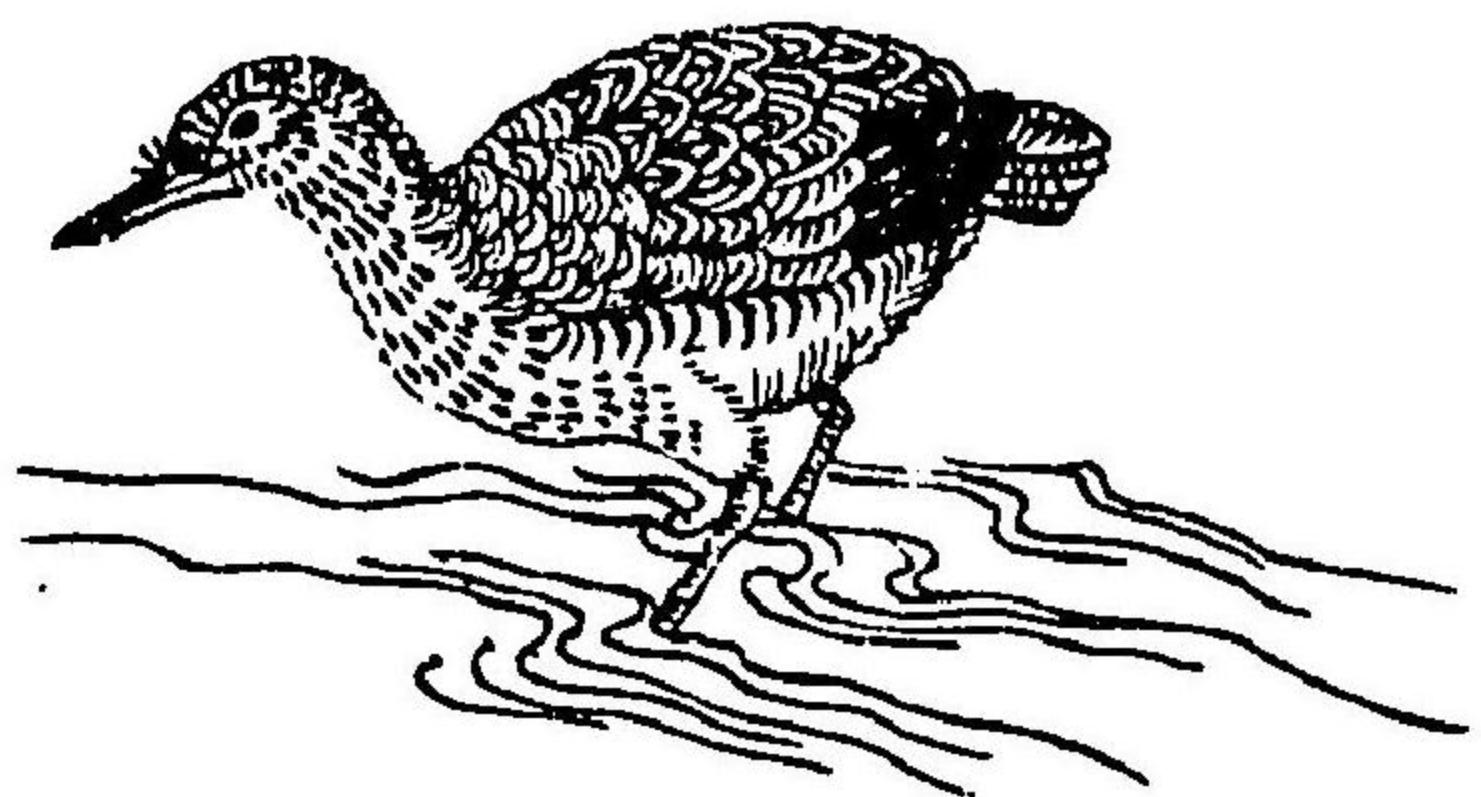


俗にこれと千鳥と云
 ふ常に百千の群をな
 し、江海、水辺に翔翺して
 甚と迅疾なり、其種最も
 多くして四十八類あり
 ものあり

都鳥ハ其状鷓鴣の如く、
 嘴と脚と正赤あり

鷓鴣ハ其状鷓鴣の如く、
 蒼色あり、常に田野の

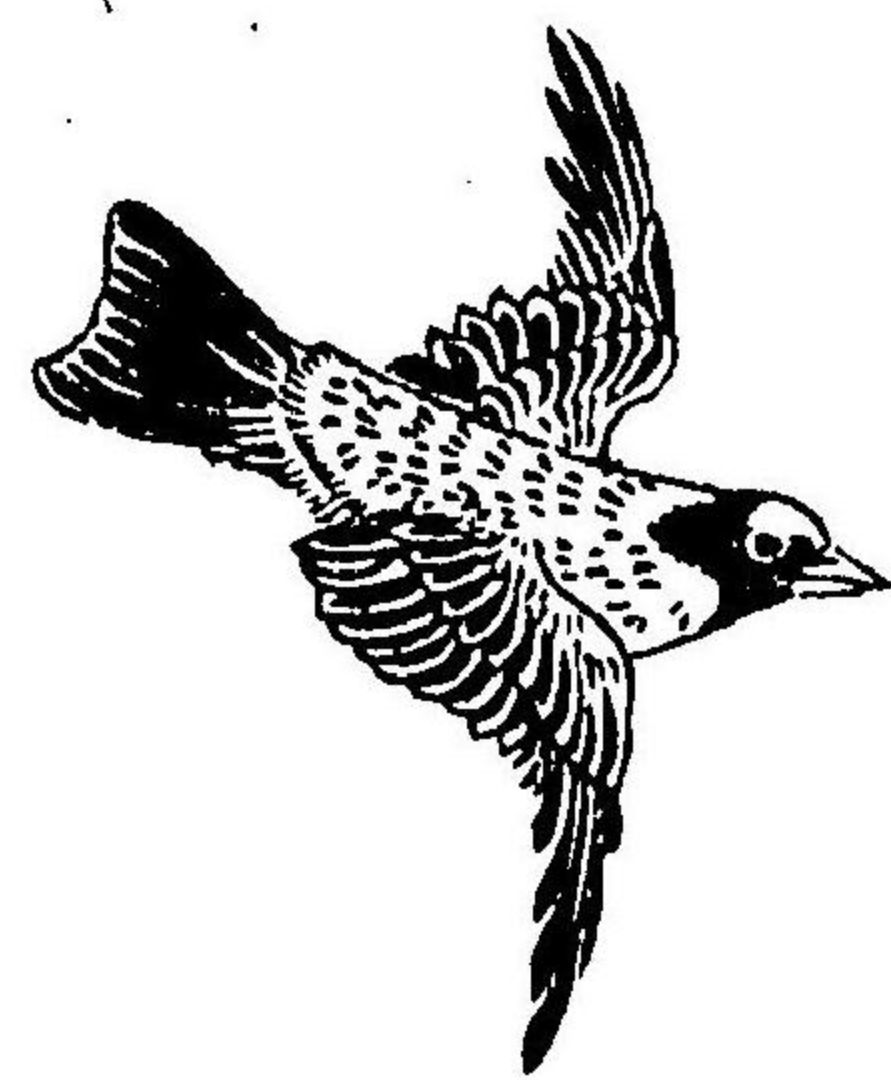
鷓鴣の圖



間は在て能く鳴く、其種
 甚と多くして、保止鷓、胸
 黒鷓、真鷓、黍鷓、黄脚鷓、京
 女鷓、羽斑鷓、狗鷓、山鷓等
 ありて、みれば山田或ハ溪
 澗等に栖むるものありと
 云ふ

割葦雀ハ其狀鴛々似て大きき雀の如し全身青
灰の斑ありて長き尾あり常に田澤蘆葦の中
在り好んで葦中の蟲を食ふ其鳴く聲喧々く
て天晴るれば愈々群集して鳴く俗にこれと稱

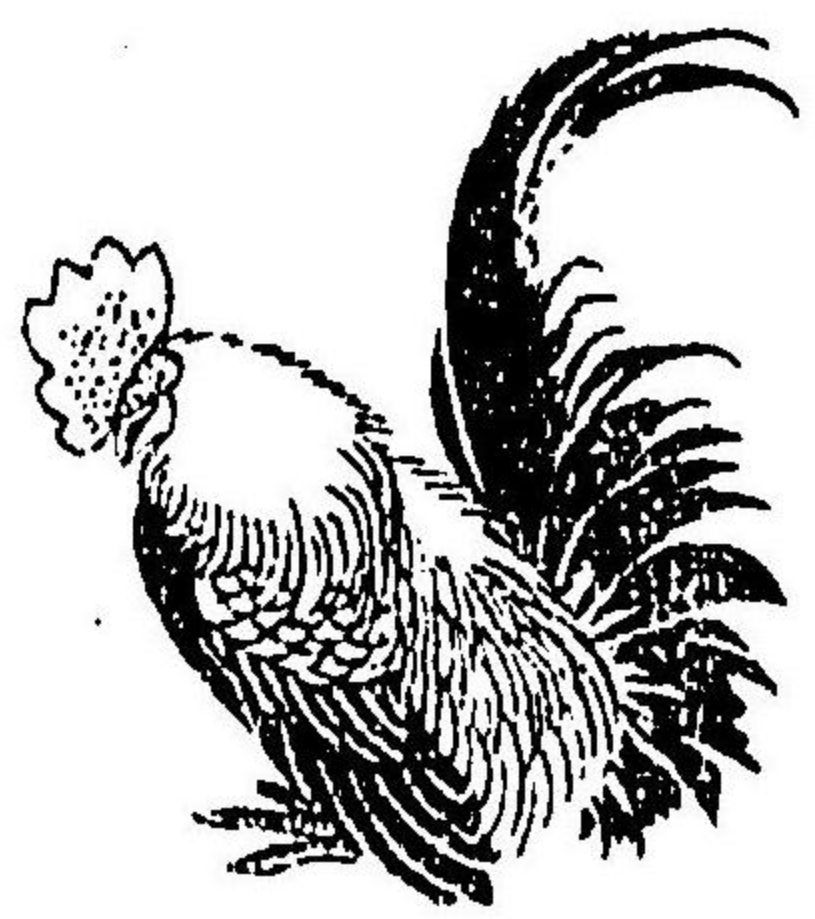
嗽金鳥の圖



して蘆鴛と云ふ
嗽金鳥ハ其狀雀の
如く全身黄色あり
常ハ海上と翱翔ハ
其性寒と畏ると
云ふ

雞ハ人家に畜て庭に馴る因て俗にこれと庭鳥
と云ふ其大なるものと蜀と曰ひ小なるものと
荆と曰ふ其雛と鷄と曰ふ其類最も多くして大
小の形色亦異なり尋常の雞俗に呼んで小國と

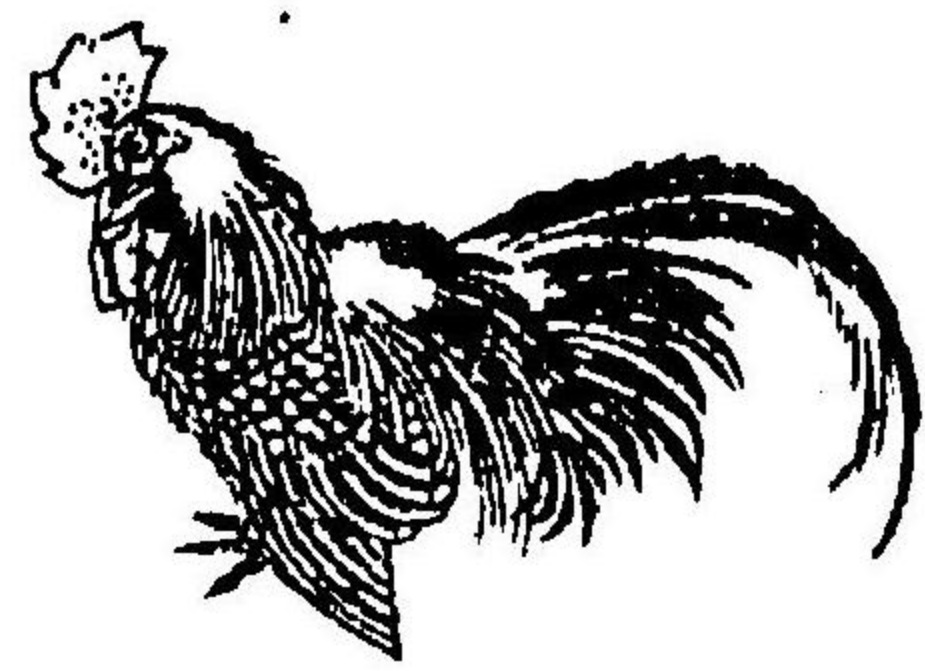
鶏の圖



云ふ其鳴くや時刻を知
る丑の時より始まる一
種蜀雞と云ふものあり
其形大ひかして尾短し
項の肉冠の如くして赤
色あり

矮雞ちがひの其形短くくして尾長くく勾りりて頭の後へ
ふ届りり嘴脚黄色ありあるものと宜しくは一種南京
矮雞ちがひと云ふものなり其狀最も小さくして脚及
ひ眼の色黄ありあり又加比丹矮雞ちがひと云ふものあり都

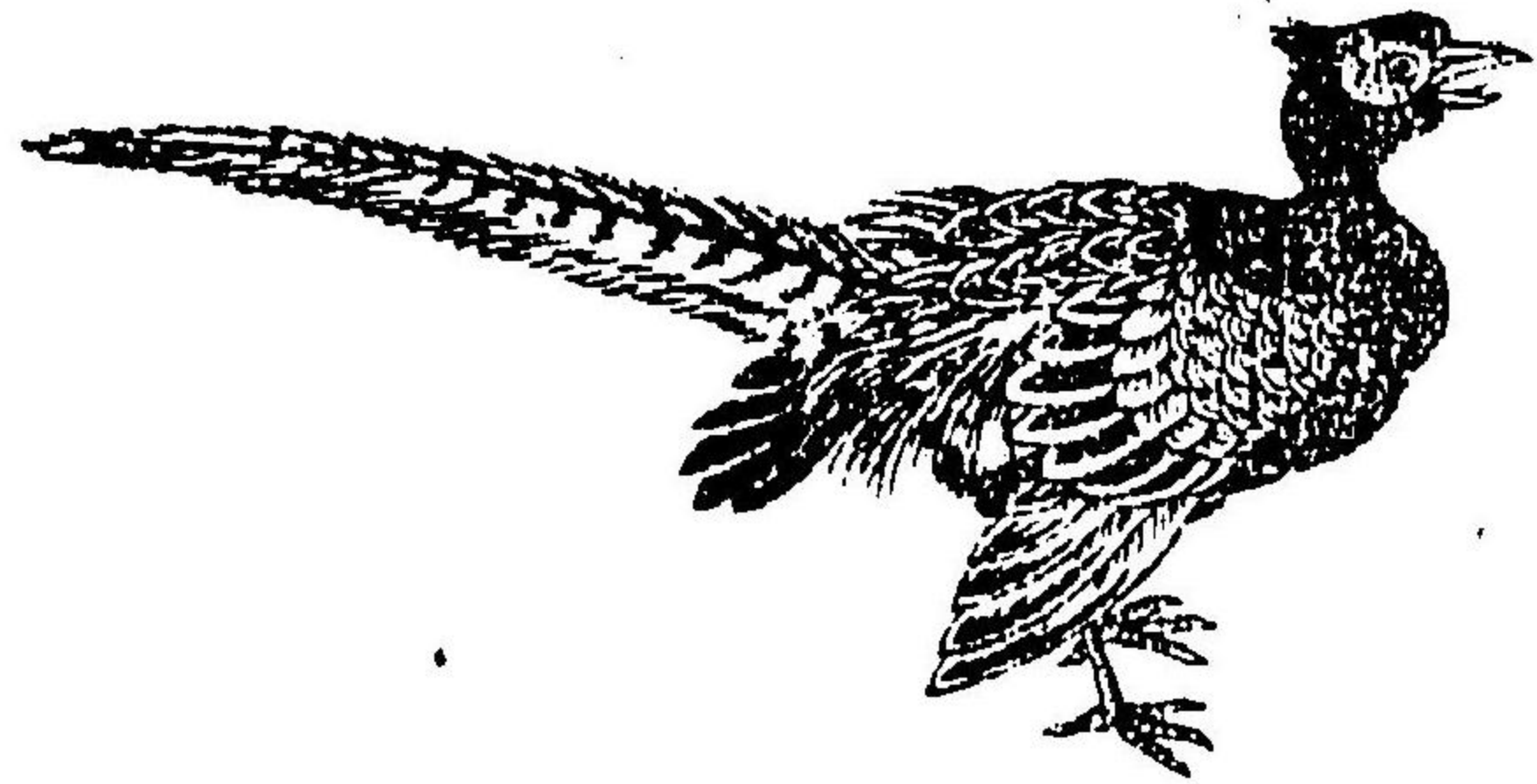
矮雞ちがひの圖



て矮雞ちがひの高く飛ぶこと
能へとて聲も亦小さ
矮雞ちがひの和雞わがひと交りて
生ひるもの脚甚まと矮ちがひ
らすりておれと俗ひ半
矮ちがひと云ふ

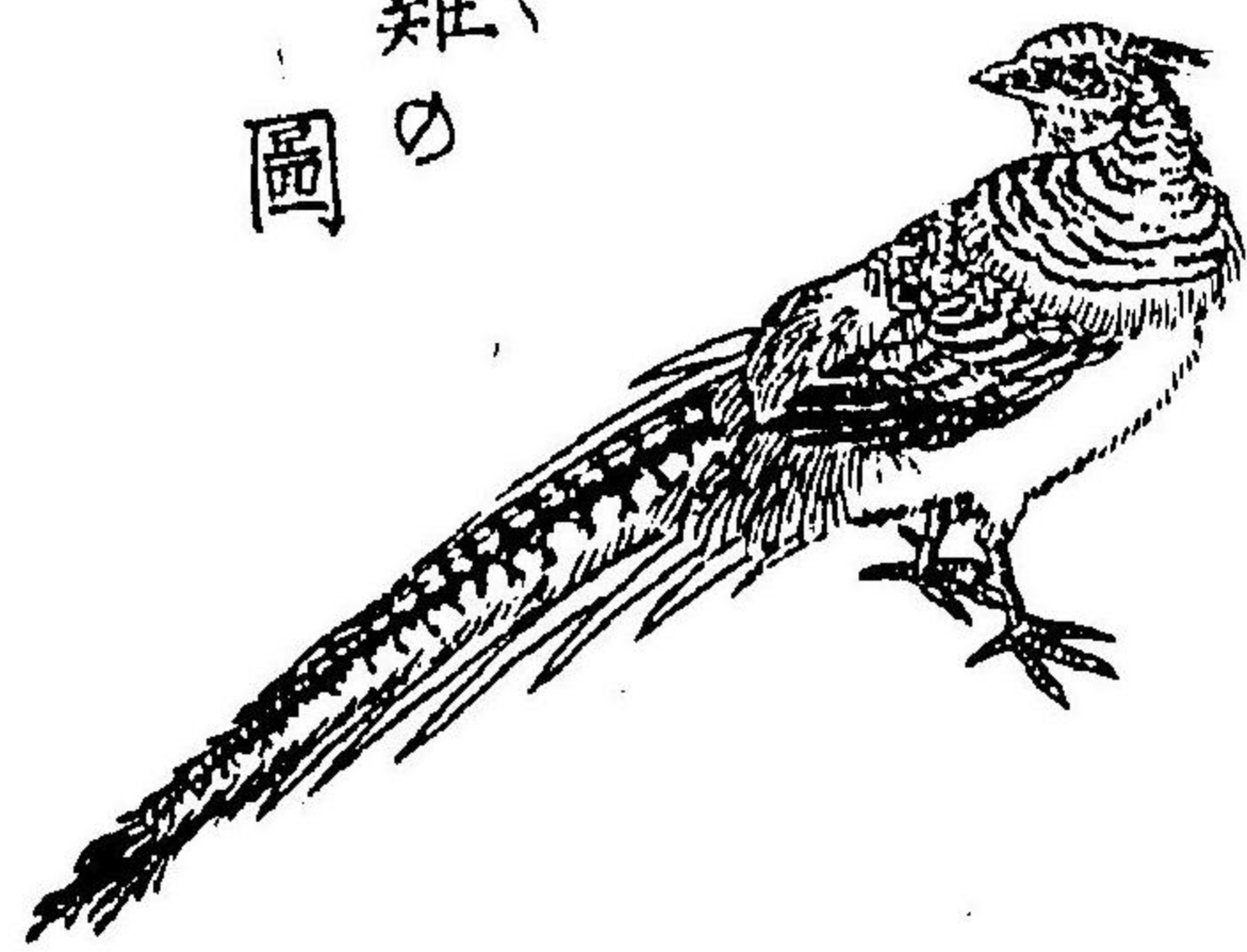
野雞のの其形雞に似てて頂まに雙角毛ありあり頭胸腹
共に翠黑色ありありて光澤ありあり頬眼紅ありありて背尖
の背の文彩ありありて腰ま長き緑毛ありあり尾の最も

野雞のの圖



長くくして又文彩ありあり
翅の短くくして蒼黒の
斑ありあり雌の黄赤黒
の斑ありありて文暗く尾
の短く常に山野に在
て蛇を食ふ俗にこれ
と木之と云ふ

山雞ハ其狀雉より大ハカクテ尾の長さ二三尺
あり背赤くして尾の端ニ白き圈文あり頭と兩
頬ニ紅毛ありて恰モ冠の如ク嘴黒くして末赤



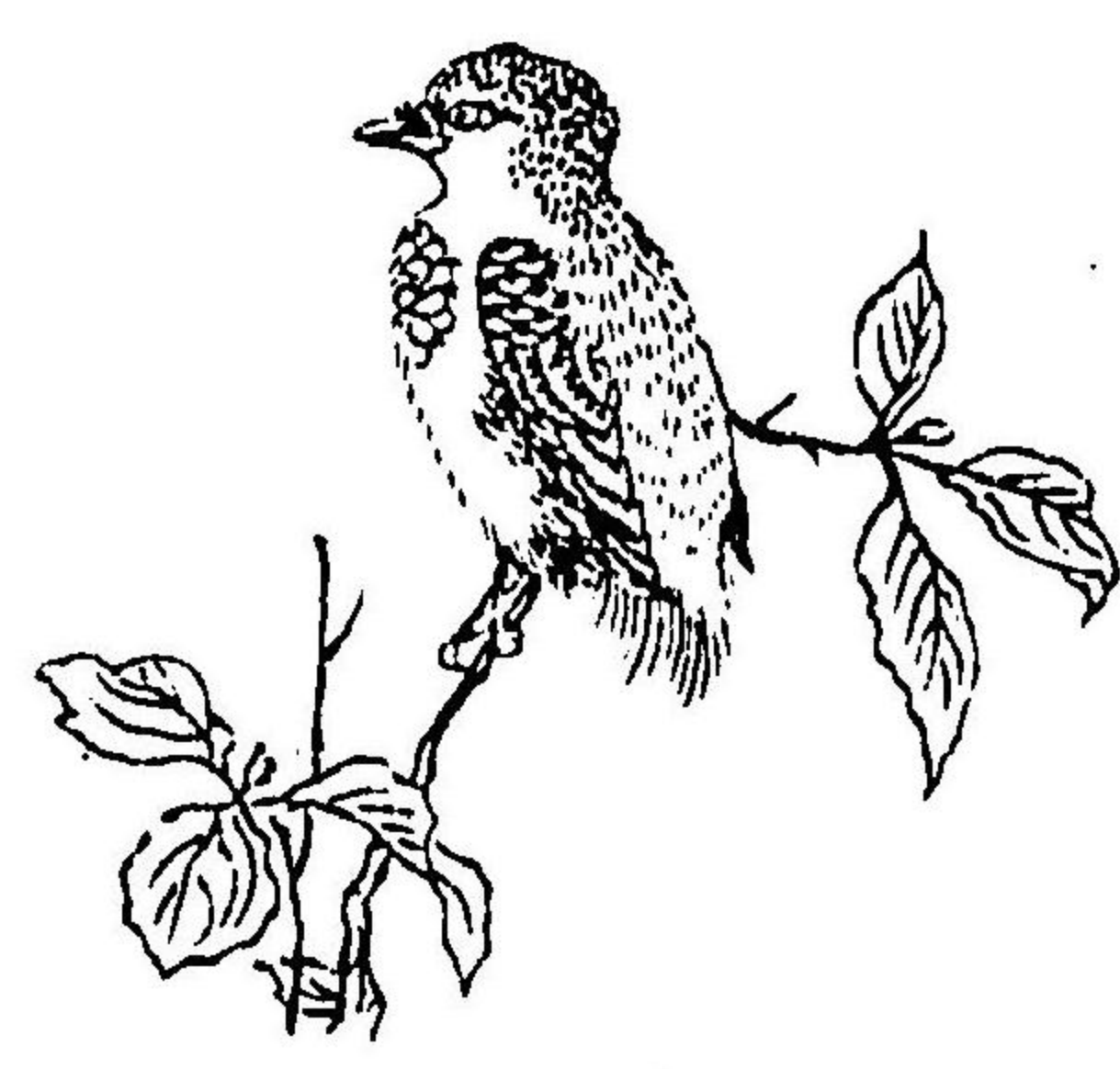
山雞の圖

一其尾の數二十六あり
中ニ最も長きもの二つ
あり雌ハ黑色にして微
一赤と帶ふ頂ニ冠無く
して尾の長さ五寸余あり
山雞の性乖巧にして
捕へ難きものあり

吐綬雞ハ其狀家雞の如ク其小かるものハ鴝
の如ク頭頰雉ニ似て羽毛黑色あり雜るに黃白
色と以て一其圓點あること真珠の如ク項の上
ニ兩翠角の二寸計あるものあり
鴝雞ハ其狀雉ニ似て大ハカク首ハ毛の角あり
て冠の如ク性其類と善く愛す一種青黑色の毛
のありことと鴝と云ふ
白鷗ハ雉の属ハカクして其狀山鳥の如ク全身白
色にして黒き文あり尾の長さ三尺余寸頰紅く
嘴赤く頂ニ冠毛あり

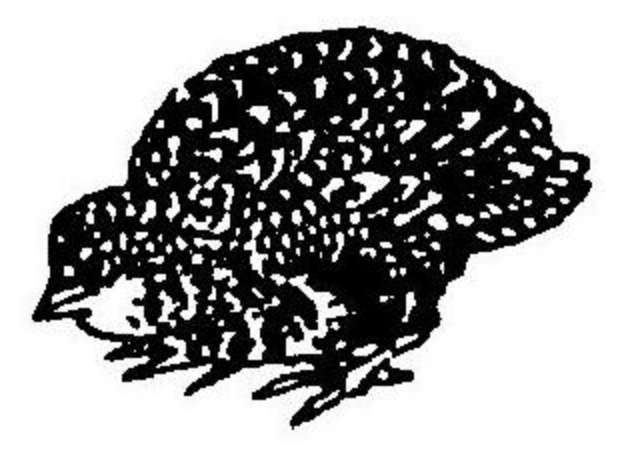
鷓鴣トビハ其狀雌雞メトリニ似テ頭ハ鷄トリノ如ク其臆前ウラニ
白キ圓點マダラアリテ恰タカハ真珠パールノ如ク背セニ紫赤ムラサキアカノ浪
文ナミアリ其性潔ツギニ好スク霜露シヨウロニ畏オソル早晚サトニハ出テ
モ夜ヨハ木葉キハニ以テ身ミニ蔽カフ
好スンテ半夏ハチョウニ食クト亦モ以テ
竹タケ雞トリハ竹林タケノコニ栖スル鳥トリニ似テ
狀カタチ小チサキ雞トリノ如ク全身ゼンシ褐カ色シキ
ホシテ斑マダララハ赤文アカノモノアリ性好イイ
ンテ能スク鳴ク肉ニクノ味アジ美シス
ホト齒ハシノ如ク

鷓鴣トビノ圖



鷄トリハ其狀雞トリノ雌メニ似テ頭カビ細ホソクニテ尾ビレホシ全身ゼンシ
ノ毛モウ斑點マダラアリ其ノ肥ツヨクト雄オスハ足アシ高タカクニテ雌メハ
足アシ卑ヒクニ其ノ性セウ淳チンニテ常トキニ淺草アサノハ中ノ竄カズニ伏カス

鷄トリノ圖



每且トクニ日午ヒルノナカト夕暮ユフニ鳴ク
三月ミツキ始ハジメメテ鳴ク芒種マダラニ
至キテ聲コエニ止ム七月シチグヒ又モ聲コエ
ニ發ス中秋チュウシュウニ至キテ又モ聲コエ
ニ止ム其ノ雌メハ足アシ卑ヒクニ
轉マラサ雄オスノ聲コエハ轉マ
セテ長ナガクニ好ストス

鷓ヒナハ其状雀ヒナに似て大ききあり頭背黧色ヒナにして黒
 き斑らあり眼の傍領白くして胸腹灰色あり脚
 細長くして爪亦長し晴日ハ高く空ニ飛上り
 舞鳴す倦ヒナときハ飛下て叢草の中ヒナ入る其鳴と

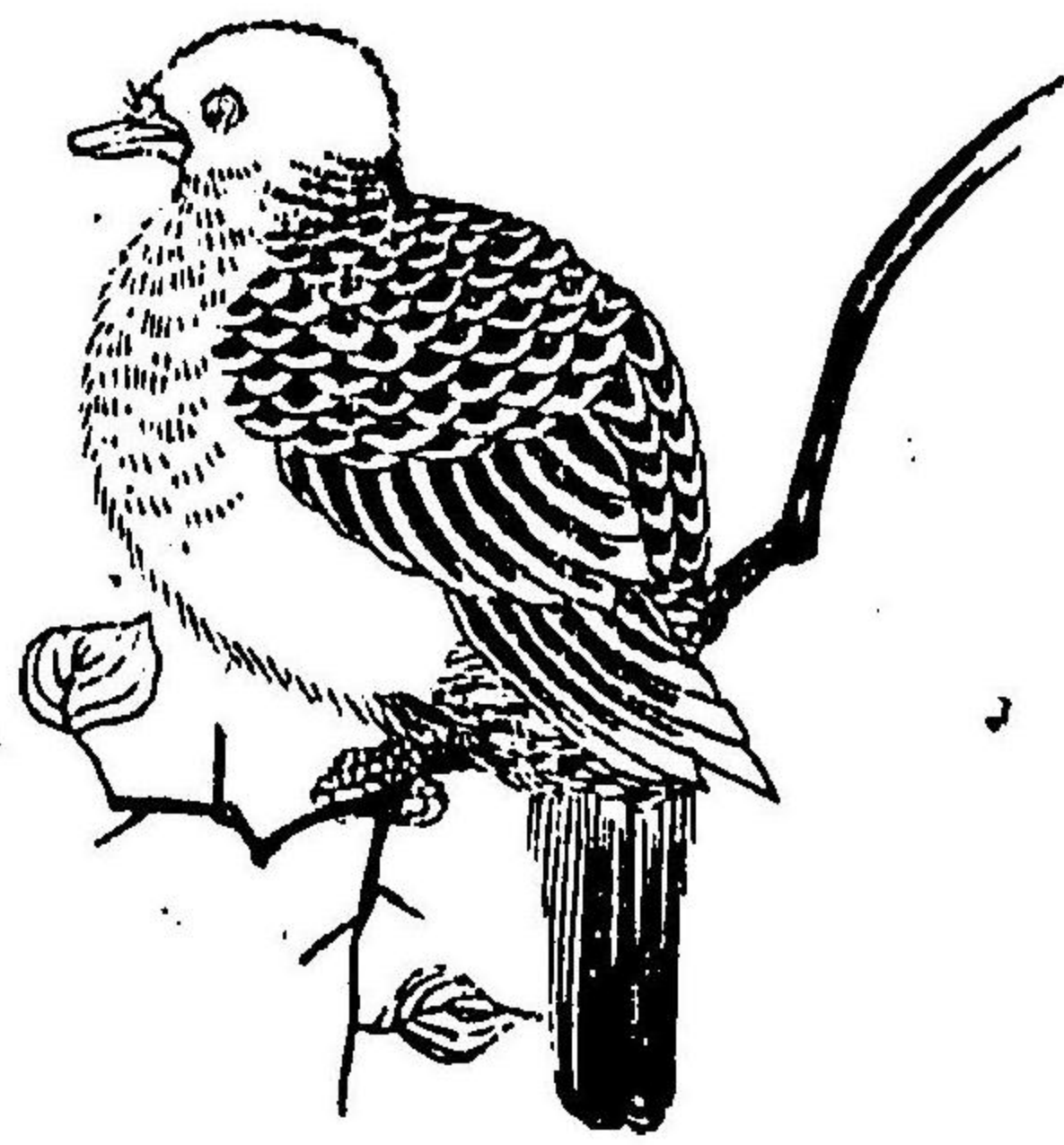
鷓ヒナの圖



きハ頭の毛と起つ其聲
 連綿ヒナとして巳ヒナ以夏月
 ハ麥圃の中に巢ヒナと造り
 俗ヒナニこれと比波里ヒナと云
 ふ好んで常ヒナハ黍ヒナと食と
 あり

鳩ハ人家に畜ふものありて頸短くく小さき冠
 あり胸隆く脰短く脚短くく背短くくして眼の金色ヒナ
 ありと善とあり其性能く人ヒナニ馴ヒナ又犬雞と相伴

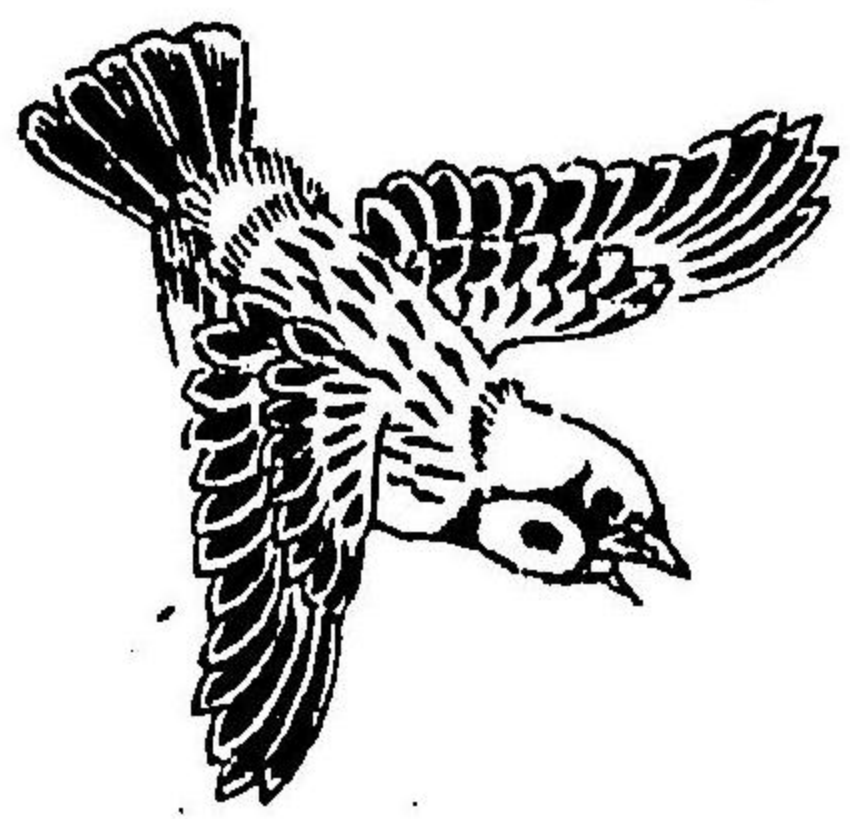
鳩ヒナの圖



ふ終夜鳴き其聲偶々ヒナ
 曰ヒナく如く又一種野鳩と
 云ヒナものあり状家鳩ヒナニ類
 一全身灰色ヒナにして冠ヒナ
 一性善く高く飛ヒナひ常に
 堂塔ヒナニ棲ヒナか俗ヒナニこれと
 堂鳩ヒナと云ふ

雀ハ小々鳥にして常に竹林ニ遊ハ其羽毛斑
 かして褐色あり領背皆黒くして頭ハ顆蒜の如
 一尾短くして二寸許あり爪ハ黄白色にして性
 淫なり雀の老て斑らあるものと麻雀と云ふ小

雀の圖



さくして口の黄あるもの
 のと黄雀と云ふ又饒奈
 雀と云ふものあり形雀よ
 り小さくして頭背共
 赤柿色にして腹白く脛
 脚共と灰色あり

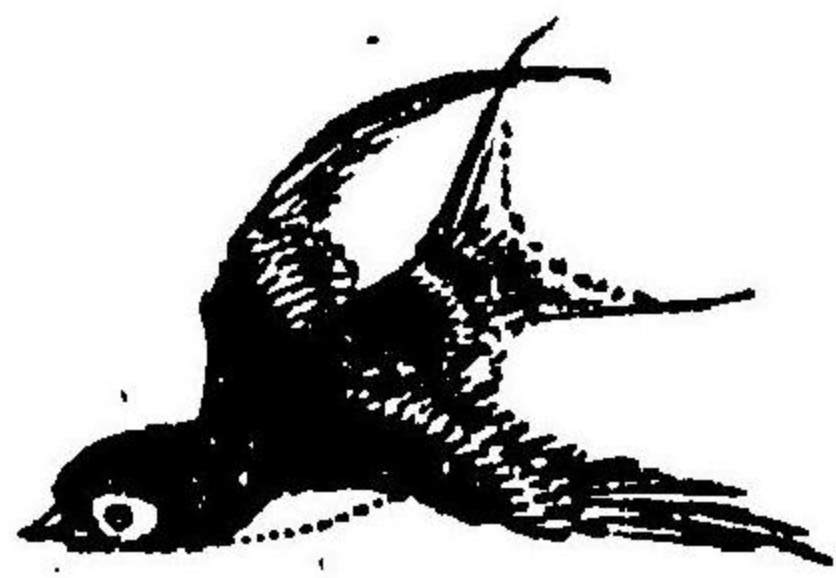
蒿雀ハ鴉に似て大き々と雀の如く頭ら青黄色
 して縦に紫の斑らあり上嘴と眼の辺り黒色に
 して胸ハ淡黄あり眉頰黄白かして翅ハ黄赤と
 黒との斑文あり性急驟くして聲短小あり



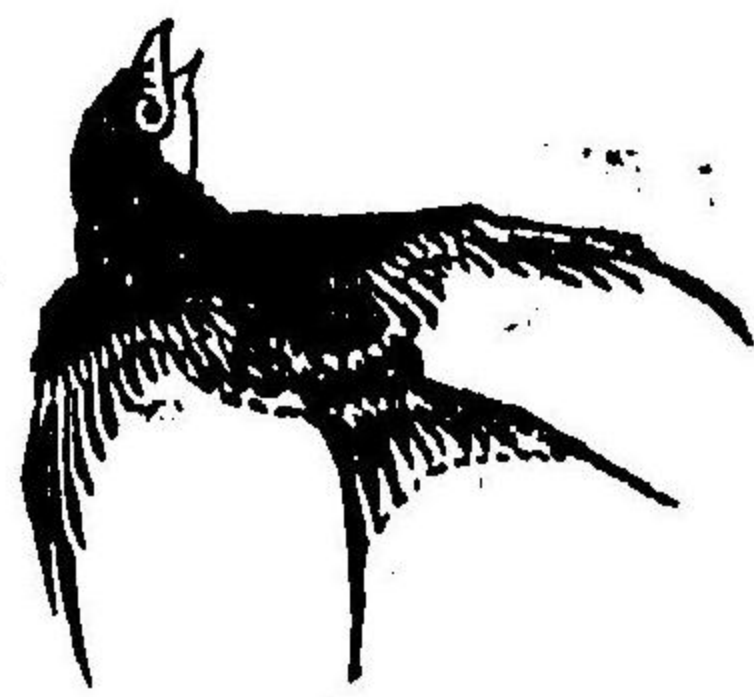
蒿雀の圖

野鴉ハ其狀青鴉に似て
 小く頭青黄色かして
 翅ハ黄赤と黒との斑ち
 り脛黄白かして脚細く
 性安靜にして常に山林
 に栖むものあり

燕ハ大さ雀の如く玄き羽白き頸額赤黄色
 して春來り秋去るものあり性能く飛ハ甚ハ捷
 くして仰きて亦能く飛入家の軒ニ巢を造り
 巢の固あるものと泥を用ふ都て一多ハ巢を造る
 の家ハ歳々來るとき忘るはいつて來る其他越燕



燕の圖



と云ハのり
 胸紫よして輕
 小あり又白燕
 胡燕あるもの
 あり

伏翼ハ其狀鼠ハ似て
 灰黒色あり翅ハ薄肉
 ありて四足及ハ尾ハ
 連合を多く古寺の瓦
 間ニ巢を造り性山椒
 と好ハ夜ハ飛て蚊蚋を食ハ冬ハ蟄す其鳥大
 こと最を卑賤あるものなり



伏翼の圖

東京第五大區七小區仲徒町三丁目九番地

廣島縣士族

藤井惟勉編輯

官許

明治八年六月十七日

本石町三丁目第九番地

東京書林

江島喜兵衛藏板

